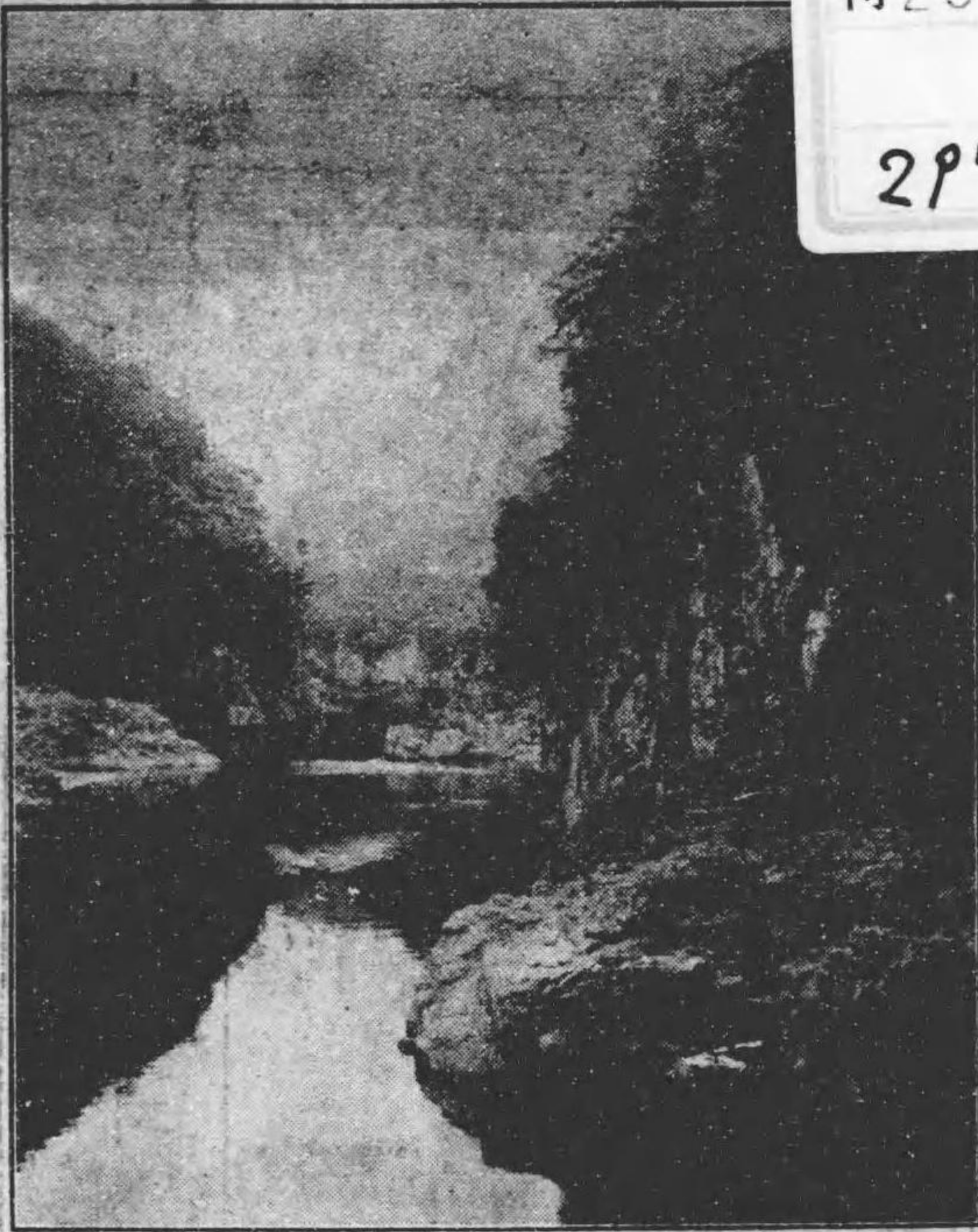


特256

297



園公立國
る語を美の路野熊

著 村 靜 原



始



特 256
297

賜 北 白 川 宮 朝 香 榮
兩 殿 下 御 滯 泊 之 宮 榮

懇切と顧客本位をモットーとして
サービス100%にて當地代表的なり

紀州新宮

油屋旅館

電話 十番

◎ 弊館は市内の中央に位し、別荘、大廣間、廣大なる庭園を擁し、最も閑靜にて落着きあり
◎ 國立公園熊野及瀨峽御探勝には特に御案内の便を圖ります。

◇ 本店 御料理、割烹 林 泉 閣 電話(三〇一三番)

自序

旅は人生の最大の愉快事である。然しその楽しい旅も漫然たる旅行は如何なる觀察點から觀ても確かに金と時間との大なる徒費である。近代人の旅行には此の金と時間を巧に利用して旅から享ける見聞の効果をヨリ大にせねばならぬ。これにはどうしても完全なる旅行案内書が必要である。

國立公園熊野は國寶的名郷である。南紀熊野路の天地は山紫水明大氣清澄大自然の神秘的風光は四季總じて甚だ佳く信仰の三熊野、山容美の熊野、海岸美の熊野に旅行する者は精神を怡ばしめ感情を樂ましめながら實かに四肢五體を到る處に噴出する温湯に浸して四百四病を不知不識の間に癒する眞に近代人の要求にピッタリと合致した理想的遊覽地である。
本文は曾て南海鐵道吉村總務部長、池澤營業部長、山田係長の諸氏と共に熊野路視察の紀行を



(山智那) 寺渡岸青



仁王門



天下の奇勝鬼ヶ城

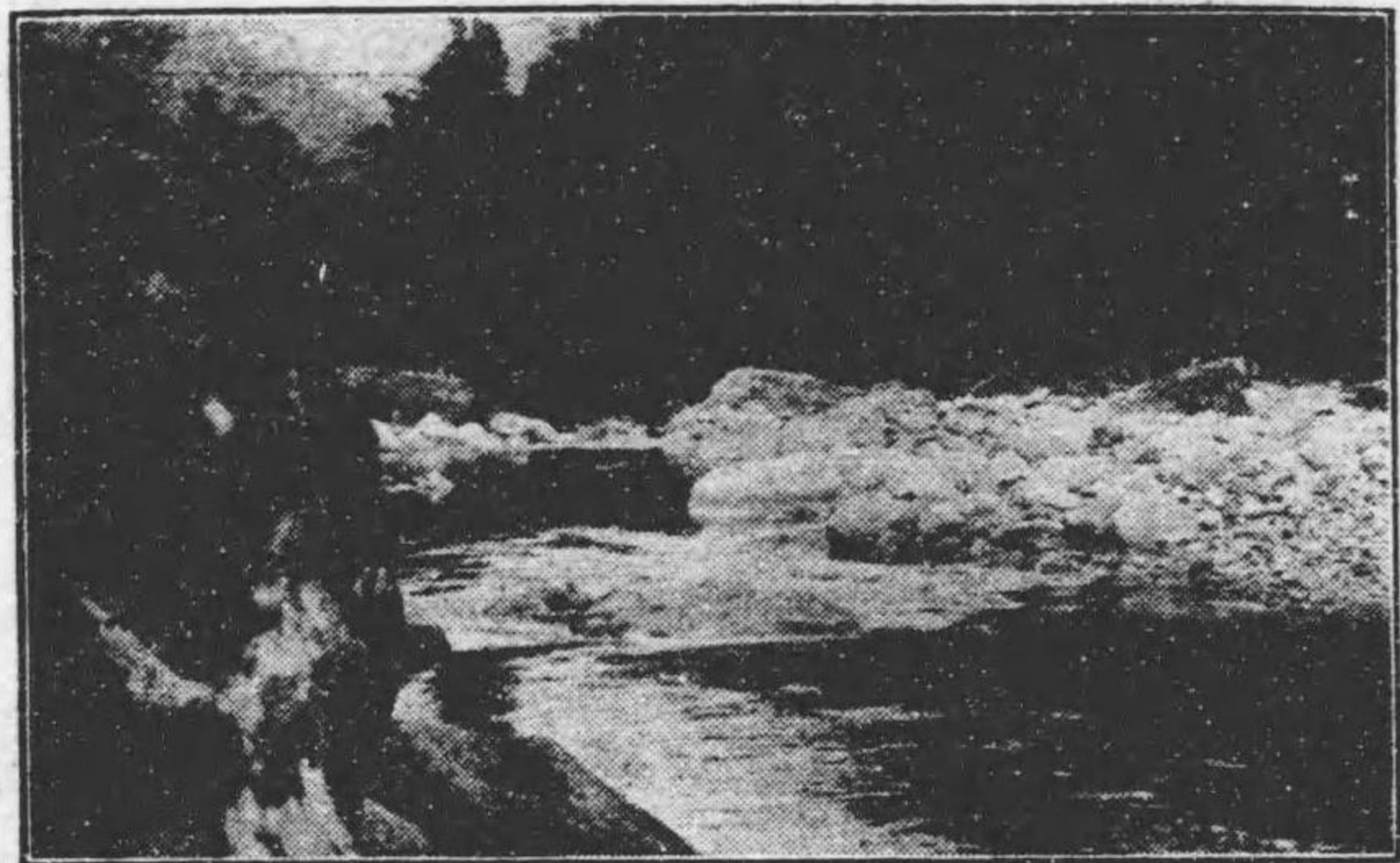
蒐録したるものである。熊野路の美は既に先輩諸氏が踏破せられ各々金玉の紀行文あり、何れもあやめと咲き亂れ文章を修めず文字を知らぬ私の紀行の如き固より人に示すべきものにあらざる事は私も之を識つて居る唯本文は時間と金を経済的に巧に利用してあるか？此の一點だけ旅行家諸氏にとつて何等かの御参考になれば私の幸慶とする所である。吾等の視察に對して非常に御世話になつた熊野自動車株式會社に深甚感謝の意を表する次第である。

昭和八年之秋菊薫る佳き日

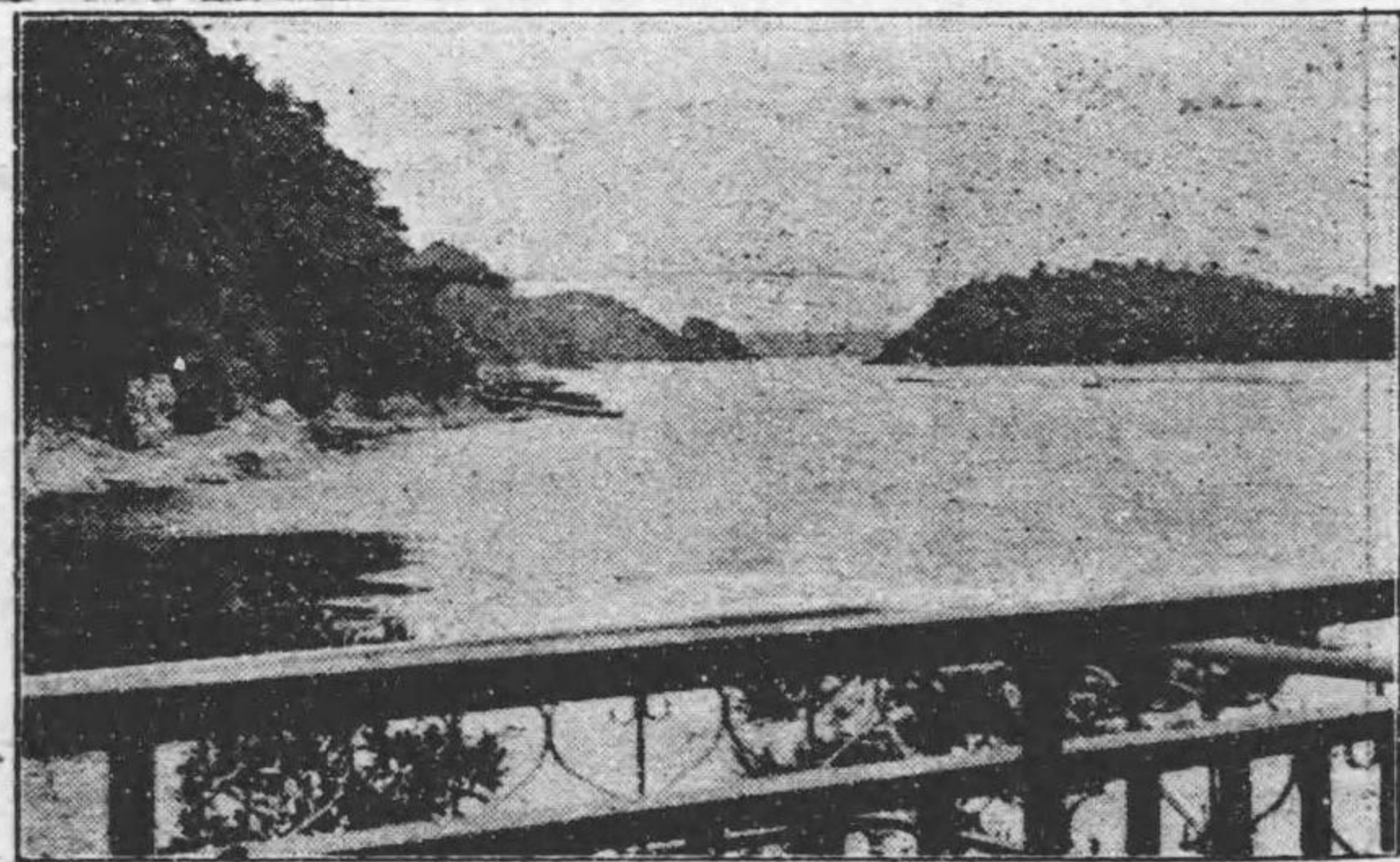


難波驛頭にて

原 靜 村

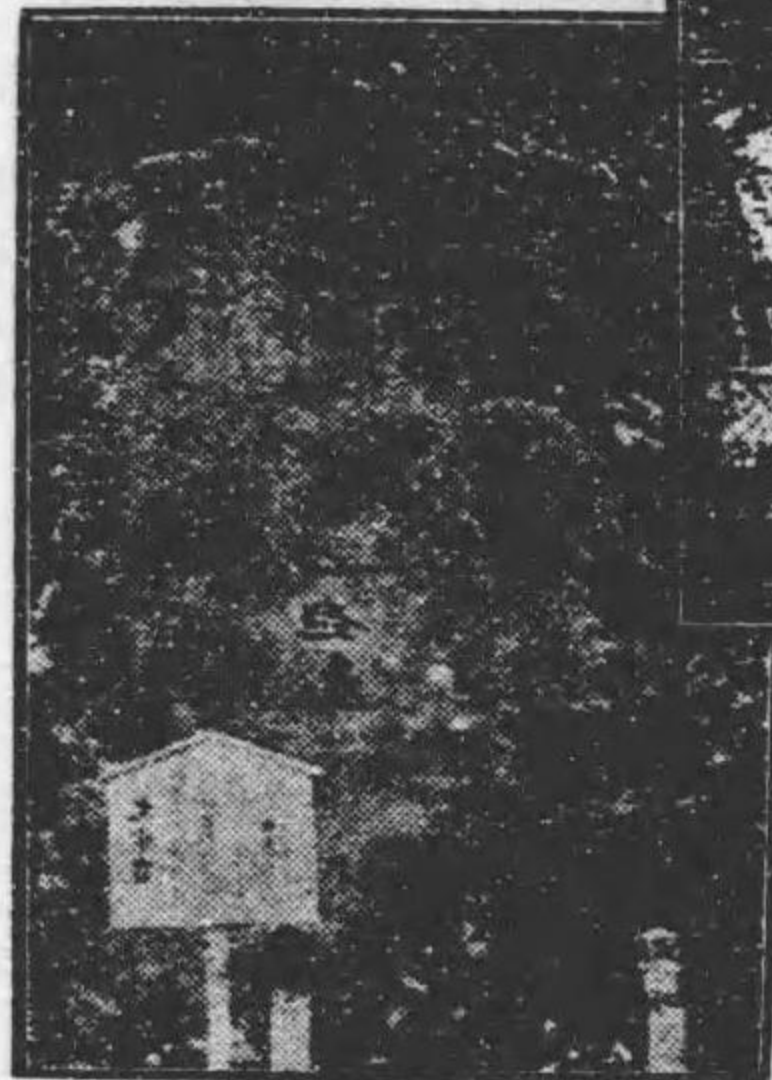


熊野名勝の郷平 (熊野名勝)



熊野名勝の郷平 (熊野名勝)

岩字文



(熊野名勝)

花の窟



(熊野名勝) 花の窟

国立公園熊野の溪谷美と海岸美を探るには陸路で行くのが一番安全でそうして時間も非常に経済的である。

陸路では大阪の中心南海難波驛を午前八時の和歌山市驛行特急に乗ると全九時に市驛に着く。市驛は紀勢西線の始發驛になつて居るから混み合ふやうなことは絶対になくいつでも空ぼうであるから樂々と席がとられる。市驛を午前九時二分發の田邊行急行に乗ると午前十一時十分に出邊驛に着く。田邊驛前には紀州第一のバス王熊野自動車の最新式快速車が十數臺待ち構へてゐる。

熊野バスは田邊町に本社を置き、田邊を起點として大邊路街道の海岸美に沿ふて串本まで四十九哩他の一方は中邊路街道昔の熊野街道湯の峯本宮まで五十三哩の溪谷美と山容美に富んだ絶勝の地を三時間半で突走するのである。

田邊の町を離れると早咲きと老梅で有名な田鶴の梅林に這入る。この梅林を車窓に迎へながら朝來村に着く。朝來は中邊路と大邊路の交叉になつてゐる。大邊路街道は朝來から左に折れて岩田、市の瀬の農村を車が縫ふて行くと富田川の堤塘に出る。富田川は漫々と水を湛へた河ではないが、河幅が非常に廣い。たゞこの河は日本一の大鰻が生棲してゐるので、天然紀念物になつてゐるのがこの河の名高い所以である。それからモウ一つは三位中將平維盛卿が高野から熊野へ落ちるときにこ

熊野路の美を探る



(川 湯 泉)

◇ 大塔川より湧出する泉の奇観 ◇



◇ 湯の峰温泉全景 ◇

の富田川の堤塘を通つたと見えて小松内大臣へ送つた歌に

岩山川誓の船に棹さして

沈ずむ我身も浮びぬる哉

又大塔宮護良親王が奈良の難を免れて熊野へ落ちさせ給ふたのもこの大邊路街道である。思へばこの街道は昔から多くの哀話で道傍の草を濡らした由緒いと深き街道である。

附近の龍松山は天正年間、豊臣秀吉の大軍が田邊城を攻撃のとき市の瀬龍神山の城主山本主膳が奮然起つて秀吉と敵つて遂ひに和議に至らしめたと云ふ紀州武士の典型山本主膳の古戦場である。

市の瀬村を過ぐると鮎川温泉である温泉は炭酸泉で岩窟から滾々として湧出してゐる。

鮎川温泉から少し行くと栗栖川村に這入る。栗栖川の眞砂は延平年間の悲戀哀話の主人公

清姫の故郷眞砂の里である。

鮎川温泉

延長六年奥州白河の美僧安珍は心願あつて熊野権現に參詣の砌にはこの中邊路街道を通じてキツト眞砂の豪族庄司清次の許で一泊するのを例としてゐた。清次の一人娘清姫が美僧安珍を一目見て思慕やるせなく夢だにも忘れることがなかつた。

「先の世の契りのほどを三熊野の

神のしるべもなかなかるべき」

と花鳥の使ひを百千に通じたが安珍の志堅固で槍でも鐵砲でも動かすことが出来なかつた。らしい

しかし安珍も背に腹は代られぬものだからトリツクを以て彼女に一時の鎮靜劑として左の一首を贈つて

「三熊野の神のしるべと聞くからに

なを行末のたのもしきかな」

夜半安珍が抜け出した。清姫は矢も楯も堪まらずあとを追ひ、日高川の傍で蛇身になつたのが音に名高い傳説……その悲戀哀話のヒロイン清姫の宅趾が街道から數町離れた左側に、墓は右側の草叢の中にある。

オ、……一千十年前に失戀のため聞くも惨めな悲戀哀話のヒロイン清姫よ、地下に靜かに眠れよと彼女の靈を慰めて車は過ぎ去つた。

此の附近一帯は塩見峠の麓で田邊町、三栖、万呂の各村に通ずる別路でこゝで合して本宮に向ふのである。

しばし行くと溪流を離れた向ふ岸に鬱蒼としたる尊嚴なる神社を拜するのは

瀧尻神社

である。瀧尻神社は熊野九十九王子の中瀧尻王子をお祀りしてある。附近には古代天皇が熊野御幸の御砌に御泊り在らせ給ふた瀧尻御宿所がある。御宿所の近くに乳岩と稱する奇岩があり、岩窟内は四間ばかりあつてそうして神秘的の傳説を持つてゐる。

昔奥州秀衡が熊野権現へ參詣の砌秀衡の妻女が妊娠してゐたのでこの「岩窟の中で三郎」

産んだ。」乳呑兒を抱へて參詣が出来ないのでこの岩窟へ残しておいた。何處ともなく滿々としたハチ切れそな乳房を抱へた狼が現れて三郎に乳を與へて養育したと云ふことでこの三郎こそ後世武名を天下に轟かした泉三郎忠衡である。

この邊からだん／＼と溪流の風致が良くなつて来る。山が段々と重つて来る。

清が栗栖川に突入する。栗栖川は中邊路街道の宿場でこの街道で一番大きい村である。栗栖川を出るといよいよ溪流美の富田川の堤を車は走る矢のように走る。風景は幻のように亂れ飛ぶ。溪流には錦繡織りなす紅葉、黄葉は眼前に出没し、變幻極まりなき斷崖に刻んで堤には桔梗、萱、女郎花、歩むに絡らむ葛かすらが白露に濡れて居るその美絶は陽春四月に勝つてゐる。栗栖川、二川村を過ぎると福定に近遠橋と云ふのがある。この橋を渡るといよいよ熊野三千六百峰の最高峰

逢坂峠

に差しかゝるこの峠は海拔三千尺、熊野三千六百峰の群を抜いてゐる。魁偉なる山貌、山顛の展望は實に雄大！熊野三千六百峰は雲？霧？恰も大海の大波小波がうね／＼と押し寄せたような物凄い眺めである。

逢坂峠を下ると山中の閑村近露である。近露は護良親王を救ひまゐらせた南朝の忠臣野長瀬六郎の舊貫である。

近露の村から小丘を登つて行くとすぐ「野中の清水」である。野中の清水は海拔三千餘尺の高嶺に車例な玉泉が滾々として湧出してどんな旱天のときでもこの野中の清水は減水したことはない。その

清水の附近の山村の人達は自家用發電所を設けて居る位だから如何に湧出量が多いかと云ふことを雄辯に物語つてゐる。

ここを通る人達はこの高嶺の秘水の魅力にひきつけられて必らず一杯は頂戴に及ぶ。その美味は實に何んとも形容しがたき甘露の味がする。

俳人嵐雪の名句に

「住みかねて道まで出する山清水」

その東隣に鬱蒼とした巨杉の森がある。この老杉巨杉は周圍三丈程もあるがその枝が全部東方熊野權現の方向のみに向つてゐるのは實に奇異の思ひがする靈樹である。

世人は孤獨の身を……わたしや野中の一本杉……と能くいふがあれはこの野中の一方杉の轉訛であるそうだ。一方杉から二三丁離れた路傍に

秀衡櫻

と云ふのがある。奥州の秀衡が嬰兒を瀧尻の岩窟に遺して來たものの流石に恩愛の情禁じ難きものと見え手にしてゐた櫻の枝を折つてこゝに差し残した。若し瀧尻王子に産み遺した三郎が無事に成長するならばこの枝に根を下し花を咲せと念じたところ不思議にもその枝に美事な花が咲いたといはれてゐる。現存する櫻は紀伊の南龍公が植え繼いだものだそうな……こゝからは直ぐ小廣峠である。小廣峠と笠塔峠の雄姿を征服して下ると音に聞く日本一の紅葉の新名所「平井郷の紅葉溪」である。小廣峠から四村武位までの二里半、自動車で三十分、大溪

谷、深溪に常緑樹と相映じて全山眞紅に燃ゆる幽谷の神秘境である。平井郷の紅葉の雄大なる紅葉の景致が世に餘り知られてゐないのは私は甚だ遺憾に思ふ。而してそれは今までは交通不便であつたために世間一般に廣く知れ渡らなかつたからであらう。熊野自動車が開通してからボツ／＼と紅葉狭りに京阪神から來る。近頃香落溪が紅葉の新名所として賣出してゐるがこの平井郷の紅葉を觀ないから、香落溪は日本一なんと誇稱してゐるが、幾千尺の溪谷、斷崖絶壁、蜿々二里半の大紅葉しかも深溪特有の「ハゼ」の葉、おく霜に眞紅が滴る景、綾錦織りなす紅葉の豪華版、聳え立つ絶壁の谷底を流れてゐる四村川の澄明な水は涼々として流れ河底の石を一ツ一ツ數えられる。そこに全山の眞紅が映えてゐる光景は實に何んとも筆舌に盡す能はざる美觀である。

私は敢えて言ひ度は、「平井郷の紅葉を見ずして日本の紅葉を語る勿れ」と——眞に平井郷の紅葉は紅葉の大豪華版で斷然日本一也。

平井郷の深山美に見惚れてゐるうちに車は知らず／＼東牟婁郡四村領に頭を突込んでゐる。モウ直ぐ申時である。こゝまで來ると川湯温泉と湯の峯とへの分岐點でその尖端に起つて遙るかに左の山と山の間から濛々として湯氣が立ち上つてゐる。その大蒸氣で一村悉く包んでゐる。湯元こそ萬人憧憬の的となつてゐる湯の峯温泉である。申時を右に折れると川湯温泉であるが私達は先づ憧憬の的、湯の峯へと心指した。峠から三分もかゝらぬ湯の峯のあづまやへ行つたのは正に午後三時四十分……あゝ……なんと早いものだ今朝難波を八時に發したものが午後の三時少し過ぎには熊野三千

六百峰の最高峯大雲取の麓、天下の靈泉一浴千金の湯の峯温泉で旅の垢を落されるとは全く文明開化のお蔭で、今更ながら交通文化の恩澤に感激せずには居られなかつた。

川 湯 温 泉

川湯温泉の起源の年號は明瞭でないがその傳説に依ると今より凡そ六百三十年前請川村の郷士小淵縫之助といふ人の發見によるといふ。同氏は兼ねて熊野權現に信仰が厚かつた。或る夜靈夢により當地に温泉の湧出するを知れるもその眞偽いまだ知るべからず、その實否を探らんと欲し或る日此の地に分け入りたるも往古より狐狼の外通行せざるを以て人道とて更になく草木を分け幾外の困難を侵して漸くこの地に來たり。然るに偶然途中にて白髮の老翁に會ひ幸に途を尋ねたところ翁曰く「汝速に此地を去るべし是れ神境なり又再び來る可からず」と然れども同氏は權現を信するの餘り答へて曰く「我熊野權現の靈夢によりてこの地に靈泉の噴出するを知れり 因てその實況を探らんがために來れり」とて固く執つて動かなかつた。翁は忽然としてその委ねとを失せず、茲に於て愈々その靈夢の音ならざを知りて益々勇進したるもその所在地を發見するに至らなかつた。疲勞の餘り河邊に起立して暫く水の流れを眺めてゐると對岸にあたり川鳥が樹木の枝に止まりて飛去る有様が見へたので怪しみてその樹下に至れば果して川中より温泉の湧出するのを發見したのである。その

後この地に移り来りて小淵縫之助と改めてその子孫今に連綿としてこの地にあり、故に同地では川鳥を神鳥として現在でもこれを捕へることを絶対に禁じてゐる。

川湯温泉泉

へ行くには田邊からなら湯の峯の手前申峠を右に這つて行くのであるがバスは請川か或は川湯直行に乗れば僅か十五分、徒歩で四十分もあれば樂々に行ける。温泉場は新宮からプロペラ船で請川まで乗つてこゝから徒歩で十町餘りである。温泉は大塔川の川中からブツ／＼と湯玉を上げてゐる川原を掘れば温泉、砂を掘れば温泉、石を割れば温泉實に上下十數丁の間何處を掘つても清例玉の如き温泉がたぎつてゐる。温度の調節も極めて自然的で熱ければ川から水を引いて加減が出来る。又入浴しながら大塔川に優姿を見せてゐる鮎を自分が使つてゐるタオルで樂々に掴みとれる。時には鮎が温泉のハケ口へ迷つて來ることもある。全くこぼばかりは太古的の古色蒼然とした温泉場である。

自然美

大塔川の斷崖には四季折々の花があり、亦大塔川の河鹿は所謂深山溪谷特有のもので青葉が薫る頃には金鈴のやうな音で聽く人の魂を恍惚とせしめる、これを河鹿時雨と稱して熊野の一名物である。實に川湯温泉の大自然美はいい。大塔川は涼々と響き颯々の聲耳を樂しめ、目を怡ばすその静寂の靈境を想はせて清氣、神爽、静寞の別天地、眞に原始的の仙人生活が横溢してゐる。



.....(景全館旅屋龜).....

温泉旅館 龜屋

川湯温泉は古くからその靈泉と自然美に包まれたるを以て誇りとしてゐる。何れの旅館も自然美で包まれ見晴しもよく落つきのあるのが當温泉旅館の定評である。中にも龜屋旅館は間取の都合もよく静かで清潔で氣安くて全く家族的の旅館として其名を馳せてゐる。經營者小淵喜之助氏は川湯温泉をして廣く天下に名をなさしむべく常に奮闘されてゐる。こんな譯だからお客様は川湯温泉なるが故にお客様を大切に心がけ主人初め女中は申すに及ばすすべてのものがなにくれとなく心を配つてゐるので頗る好評である。

龜屋旅館の内容

- ◎客室、大廣間初め其他大小二五室
- ◎娯樂設備としてラヂオ、蓄音器テニスコート、川遊び船



……(富士屋旅館全景)……

宿泊料並に中食料

宿料 松…三、五〇 竹…三、〇〇 梅…二、〇〇

花…一、五〇

中食 〇、五〇以上 一、五〇迄

団体滞在は特に相談に應ずる由。

温泉 富士屋 旅館

南紀で神秘的の温泉と云へば川湯温泉、旅館といへばその名を聞くまでもなく富士屋旅館、熊野に數限りなき旅館の中で斷然光るのは川湯温泉の富士屋である。何故富士屋はこんなに名を賣つたかといへば經營者小淵藤右衛門氏が人格崇高な誠實一方の人であるから決して客を偽購して金を取るといふやうなことは絶対にない飽迄誠心誠意サービス本意を以て客に接してゐるのだから自然客たるものが有頂天ならざるを得ない。

富士屋旅館の内容

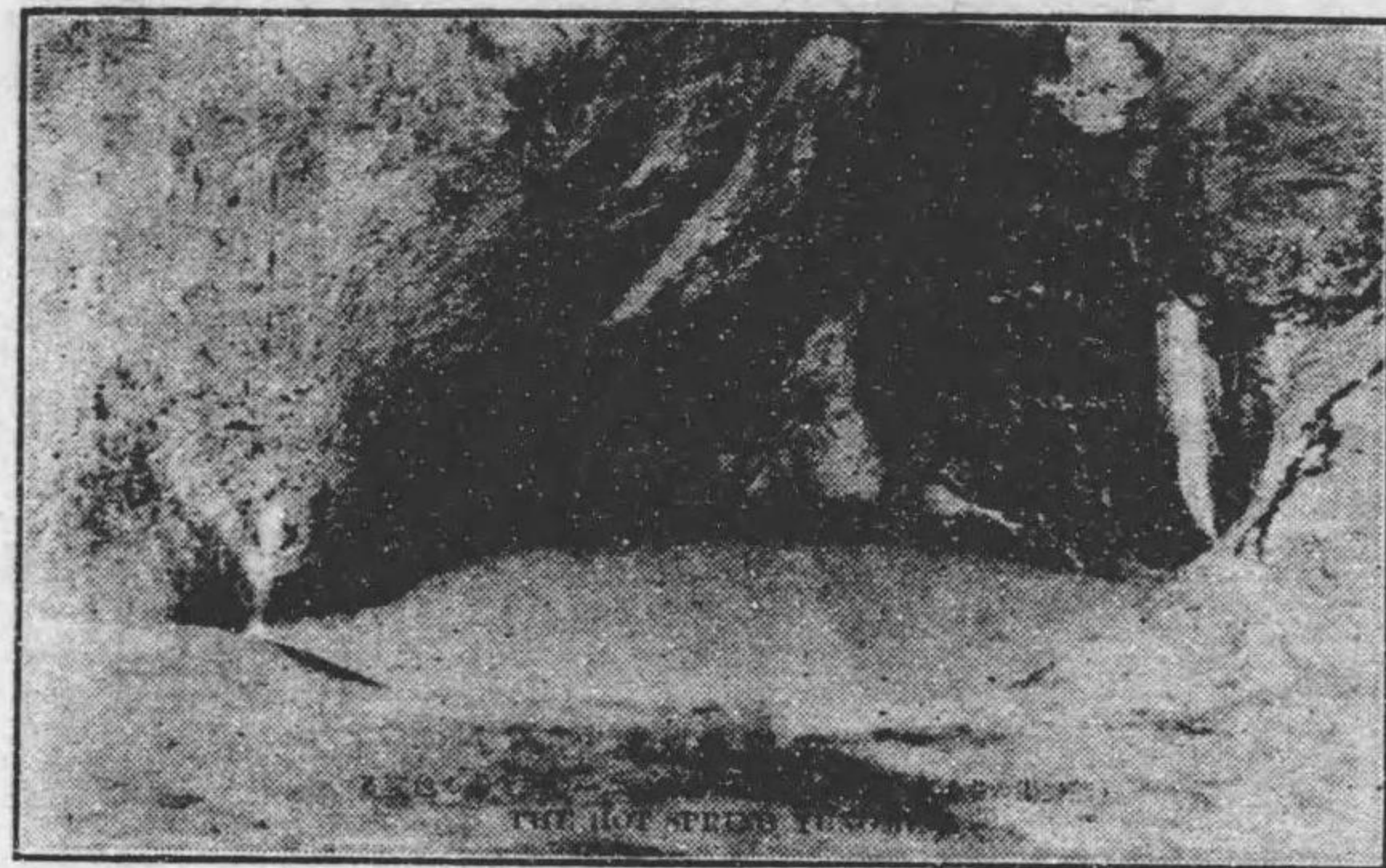
◎客室 大、小 一八室 收容人員 一五〇
◎娛樂の設備 遊覽舟、ラヂオ、蓄音器、其他

宿泊料並に中食

宿泊料 雪…二、〇〇圓 梅…二、五〇圓 竹…三、〇〇圓 松…三、五〇圓
中食料 〇、七〇圓以上一、五〇圓迄

静寂なる湯之峰温泉

當温泉は人皇第十三代成務天皇の御代に諸國に縣主を置いた。大阿刀足尼は熊野國造に任ぜられて音無川の傍「今の本宮」に住み附近の溪谷と温泉の湧出するを發見して大湯原郷と稱した。大湯原郷は中古に至りて「古湯の棟」といひ慶長十八年に湯之峯と改めたのである。人皇第四十二代文武天皇を始め奉り數代の天皇御幸の光榮に浴し温泉としては實に稀有の光榮である。これより先き景行天皇の御宇裸形上人來りて天然石(湯の花の化石)藥師如來の胸部から藥湯噴出するを見たので湯の胸とも言ふたと傳へられてゐる。



天然石壺湯

湯の玉

は炭酸泉で百八十六度小栗湯は鹽類泉で百八十八度を有してゐる。光明湯は光明皇后御入湯遊ばされた光榮ある温泉、明治維新迄は一般の入浴を禁じられお止湯と稱してゐたが時代が移り變つて今日は貸切専門の家族湯となつてゐる。小栗湯は例の小栗判官照天姫で有名なものである。天然色温泉は一日七回變色するので世界一だと誇つてゐる。

湯壺

壺湯といふのが温泉村のマン中を流れてゐる川中に點々と散在する奇岩と巨岩の間の淵から滾々として湧出してゐる。この湯は一般に開放してあつて朝から晩までいつでも入浴が出来るやうになつてゐる。丁度白濁の露天湯にグロ的を加味したものである。この湯は婦人病には特に効能が顯著で子なき婦人が一ヶ月も入浴すればキツト妊娠するといふので婦人達から一種の崇敬的觀念を拂はれてゐる。壺湯の外に岩上に朦朧として蠢めいてゐるのは裸體の女である。

神秘？幽幻？グロ？エロ？夕暗の迫る頃になると男も女も老いも若いのも乳呑兒を抱えた女房達も自然の壺湯の中へ入り代り立ち代り押し合ひ揉み合ひまるで小芋を洗ふやうに肉と肉の摺り合ふのに平氣の平左で放歌高聲喜々として湯に浸つてゐる光景はとても都會では見られない珍光景である。その悠長な光景は實に天下一品の一大奇觀である。湯に浸る人々は村の人達もあるが滞在客や一夜泊の旅鳥も多い、總ゆる階級の人物が集まり上は歴々の貴顯紳士淑女より城を枕にする英雄豪傑も居る。ズツト下つて城を傾ける娼婦もゐる。セツセツと手足に豆作れる質朴な女房や荒い染緋を着た山村の娘さんもあり全くお湯の中は人間一切平等眞に人間自由の天地である。

浴客

が肺の底から呼吸するところは將にこの壺湯であらう。この壺湯の光景は劣情を抱かすような裸體美人展覽會であるが風紀問題云々の如きは野暮の骨頂で私は左様に考へない否觀なないアレは寧ろ原始的の舊日本の遺物として觀た方が適當である。此天下の奇觀舊日本の遺物を見たい方は何をしておいても湯之峯温泉へ行かねばならぬ、これは強ち助平根性の發露でもない只参考として見ておいても罰はあたらない。

湯之峰温泉附近の名所舊蹟

東光寺

は裸形上人の創立で天臺宗藥天山と號してゐる。天仁元年鳥羽天皇の勅願として當時に一重の寶塔を起こさしめられた程の由緒ある寺で内陣の扉には兆殿司の筆になる日光月光兩菩薩が描かれてゐたもので豊太閤も天正十八年にその臣片桐且元を奉行として修理を加へてゐる。度々の罹災で寶物も多くは焼失したであらうが尙多少は存じてゐる。

一遍上人

爪書の名號は村の東入口にある、一遍上人とは相州藤澤遊行上人のことで上人は熊野權現に參籠し滿願の日靈夢によつて爪にて山石に名號を書き刻まれたものである。「大阿刀足尼の墓」は村の中央小丘にあり「小栗判官の力石」は村を出て本宮の方へ行く右側の雑林の中にある。判官はお湯の効驗に依つて病氣が全癒したので病氣前の力と同じであるかどうかと八貫以上もある大きな石を一枚板の如き大自然石に投げつけた判官の力は以前に百倍し一枚石に丸い形でへコンでゐる。その自然石も丸い石と二つとも現存し青苔が蒸して當時の面影を貽してゐる。

蒔かすの稲

は力石の下方の處にある。蒔かすの稲といふのは粃を蒔かないのに毎年その季節には稲が生える。傳説に依ると判官が髪を結んでゐた元結の代に使つてゐた藁をこの田に乗た、藁から稲が芽を生じ今日に至るまで即ち五百三十有餘年間一粒の種も蒔かないが不思議に稲が生えて米が稔つてゐる。

判官の車塚

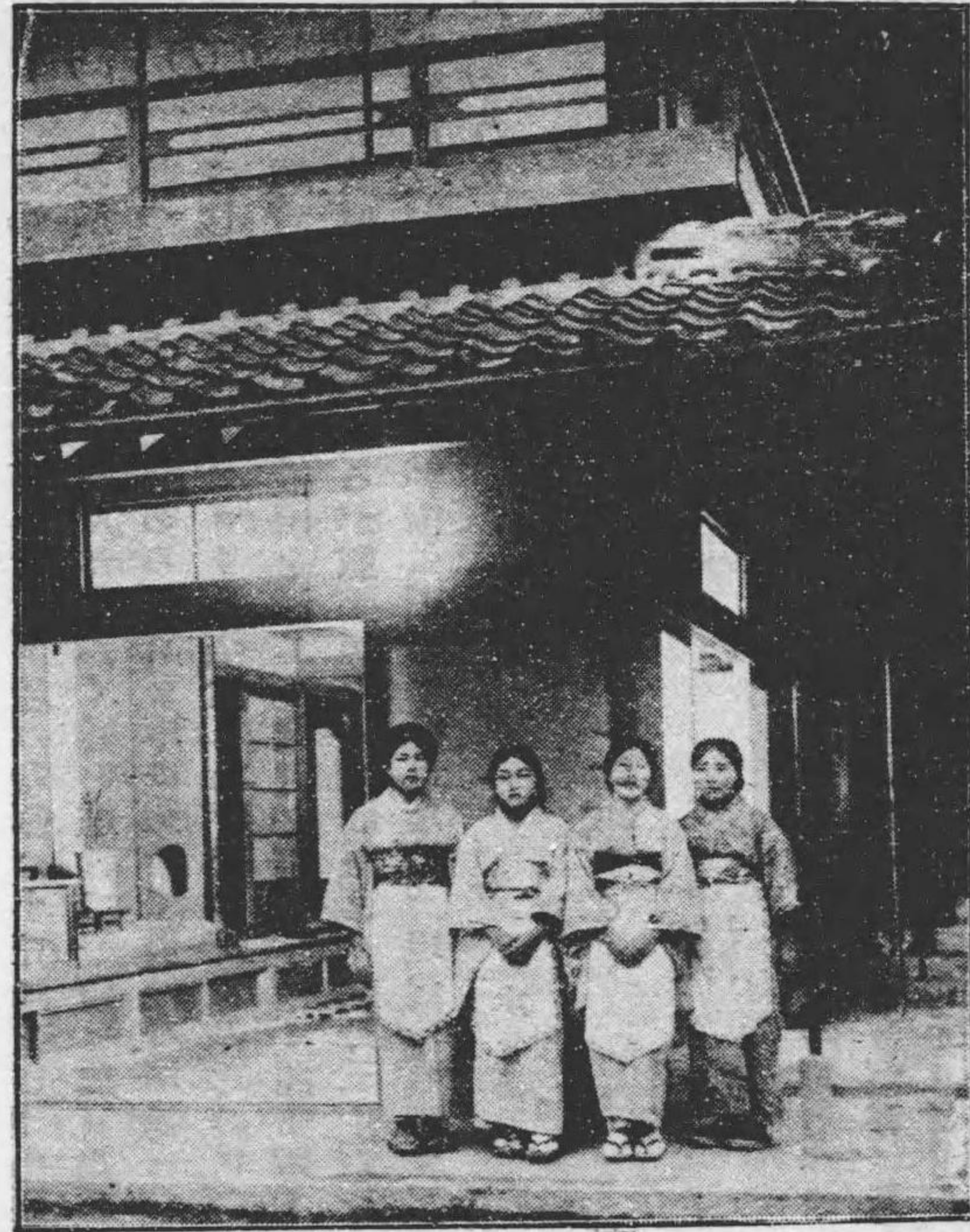
は湯之峰から本宮へ行く山道の右側の小丘に在る。小栗判官兼氏が横山前司のために鎌倉の扇谷で毒害されたが危ふく難を逃れて一命を取り止め遊行上人に救はれて上人の教へに随つて照手姫は病める判官を車に乗せて湯の峰温泉に入浴せしめ温泉の醫療的効果顯著でさしもの難病もケロリと全治した。その記念のために判官を乗せて來た車を此所に埋めて鎌倉に歸り奸賊横山を滅し小栗家を再興し後に照手姫と結婚したのである。車塚の碑は青苔厚く蒸してゐるが照手姫の純情はたとへ熊野三千六百峰が千尋の海と變り熊野灘が三千六百峰に代るとも彼女の純情は斷じて變らない。現代の有閑マダム達に車塚の苔でも煎じて飲みたいやうな氣がする。

湯之峰温泉に輝く

伊せや旅館

伊せや旅館は熊野で最も古い歴史を有する湯の峯温泉の誇るべき家柄の旅館である。現在熊野には有象無象の旅館が多い、けれ共そのどれもが客に對して満足を與へるかと思ふと決して然うでない。おそらく其何%は名ばかりの旅館で眞實の旅館としてお客に満足を與へる旅館は果して何軒あるかである。その點になると、もとく伊せや旅館は金儲けよりも信用第一主義である

◇—伊せや旅館—◇



からお客様に満足を与えることに努力を傾倒して寝具、器具其他座敷の隅々迄心を配られて實に感じ明るく又料理も腕利きの調理によく顧客の舌端を満足させてゐることに於て湯之峰第一の名が賣れてゐる。それは伊せやでなくてはなし得ない理由がある。その理由は經營者伊奈輝一郎氏は祖先代々所謂一代一業主義を奉じて營業熱心な人であるから無理をして儲けやうなんつての頭は少しもない、どこ迄もお客本位湯之峰の宣傳と開發に奮闘を續けつゝある人なり、こんな譯だからサービス良く自然

聲なくして客を呼んでゐる。

伊せや旅館の内容

◎客室 大、小二十室 疊數 一五〇疊半

◎娛樂機關 完備

宿泊料並に中食料

宿泊料 月…二、五〇圓 梅…三、〇〇圓 竹…三、五〇圓 松…四、五〇圓

中食料 一、〇〇圓以上二、〇〇圓迄

旅館は温泉に一番近く後に深山を負ひ前は溪流に臨み眺望佳し。

名聲噴々たる

あづまや旅館

天下の靈泉湯之峰温泉に君臨する旅館あづまやの經營方針は、飽く迄お客様本位で到りつくせる懇切と丁寧にて寝具、料理其他設備萬端行届いて居るので旅する人達から常に愛好されてゐる。眺望も湯之峰最勝景の地位を占めてゐるので眺望は頗る佳くまた庭園も清楚を極め、殊に全館の後



—館 旅 や ま づ あ—

園にある大竹林は南紀の一名所にて亦學術參考林として
學界から珍寶されてゐる。主人玉置良平氏は地方の有力
者にして稀れに見る奮闘家として社會から信用されてゐ
る。

あづまや旅館の内容

- ◎客室 本館、別館、新館二六 大廣間宴會場一
- ◎娛樂の設備 完備

宿泊料並に中食料

宿泊料 月…二、五〇 花…三、〇〇・梅…三、
五〇 竹…四、五〇 松…五、〇〇

中食料 一、〇〇以上

団体滞在には相談に應じてゐる。

新興の意氣に燃ゆる

よしのや旅館

湯之峰温泉で新興の意氣に燃ゆる旅館よしのやは他店の
様に誇大な宣傳をしない、どこまでも地味で真正正味を
味つて始めてよしのやのよしのやたる眞髓を知ることが
出来るのである。よしのやは決して山師的なことをやら
ない何處迄も誠心誠意顧客に對して忠實である眞面目で
ある。従つて客筋も安心して来る。よしのやの敷居を跨
いだ人は必ず二度三度と回を重ねる、それだけよしのや
はすべての點に於て勉強してゐる。

よしのや旅館の内容

- ◎客間 大、小 一一一
- ◎娛樂機關 完備

宿泊料並に中食料

宿泊料 一、五〇以上二、五〇迄
中食料 半額

団体並に滞在の方には特に相談に應ずる由



—館 旅 や の し よ—

湯の峰の閑寂とした夜は晝の疲れで夢見る隙もなくグツスリと熟睡して、フト枕を揺する谿流の嘩きに目を醒まし起き出で窓外を覗けばもう夜はほの／＼と明けんとしてゐる。濛々と立ちこめた蒸気が牛乳を流しこむやうに谷一杯を朦朧に包んでゐた早起きの人が二三人橋下に下りて其處の温泉の流れで顔を洗つてゐる。その傍に湯槽があつて沸々とたぎつてゐる。中で笹に入れて大根や里芋を茹てゐる。矢張その温泉の中でお米を囊に入れたのを浸して天與の熱で御飯まで炊いてゐる。炭も薪も要ることではない凡てが隴の中の動作でなんとなく深海の底の作業を見るやうである。神秘幽幻—そんな感じがふと胸に浮んで來る筆者はこんな静かな氣持のよい山の温泉を他に知らない。

「湯の峯から本宮へ」

本宮

湯の峰より車塚を一廻りすれば本宮で湯の峰より二十五丁の行程である。先づ熊野本宮證誠殿と言はるゝ國幣中社に詣でる前鎮靈地は河向ふ中洲のやうな形勝の地であつて、今では森々と樹木を茂らしてゐるが度々の水害に遭はれるので明治二十三年の大洪水以來は高臺の現地に鎮め祠つたので従つて神域も充分に神錆びるところまでは行かず森も浅い感じで充分伸びきつてゐないけれども神殿は何れも神々しき白木造り、古來此の神ほど皇室の尊崇を蒙られた神は伊勢大廟以外にはないので歴代の行幸も重なり、日本無双の靈場

である。この神について陳べてゐると際限もなく多くは人々の知つたことであるから此處には略して置く。

「本宮から瀨へ」

飛行艇

熊野川唯一の交通機關たるプロペラ船は恐らく知らぬ人もあるまい。今では古座川や其他に二三ヶ所同種の交通機關が設けられ南支方面でも見受けられるやうであるが、兎角熊野川のプロペラ船は世界最初の試みである。船は平底で約二十五六人を乗せるであらう、吃水が浅いから五寸位の水深があれば何處へでも激流を突破して進んで行くプロペラの響きが八ヶ間敷耳につくのは少々煩さいが何しろ飛ぶやうな快速力だからそれ位は我慢せねばなるまい、全く愉快な舟下りである。

瀨へ

北山川が熊野川に落合ふところは本宮河原宮井の部落である船がその積に着いたときに下流の方から新宮瀨瀨峽行きのプロペラ船が勇ましく水を切つて上つて來る。勇壯な感じだ、本宮から來た瀨行きの人々は皆積に下り立つて上つて來た船に乗りかへねばならない、船は北山川を溯りはじめた。最初に目に止まるのは誰れしも北山川の水の美しきだ、なんといふ清冷さだらう一丈の水深を隔て、河底の小石が歴々と數へられる或は一本の針でも認められるかも知れない。兩岸は光景頓に一轉して山容水態次第に奇景を呈して來る。創立する

岩壁の宏大さよ蟠居せる岩塊の偉大さよ私はモウ瀨峽に這入つてゐるものと思ひ舟子に訊くと未だくといふ。此のあたり右岸多くは奇壁によつて圍まれ翠松は岩壁の裂口から或は直立して或は斜

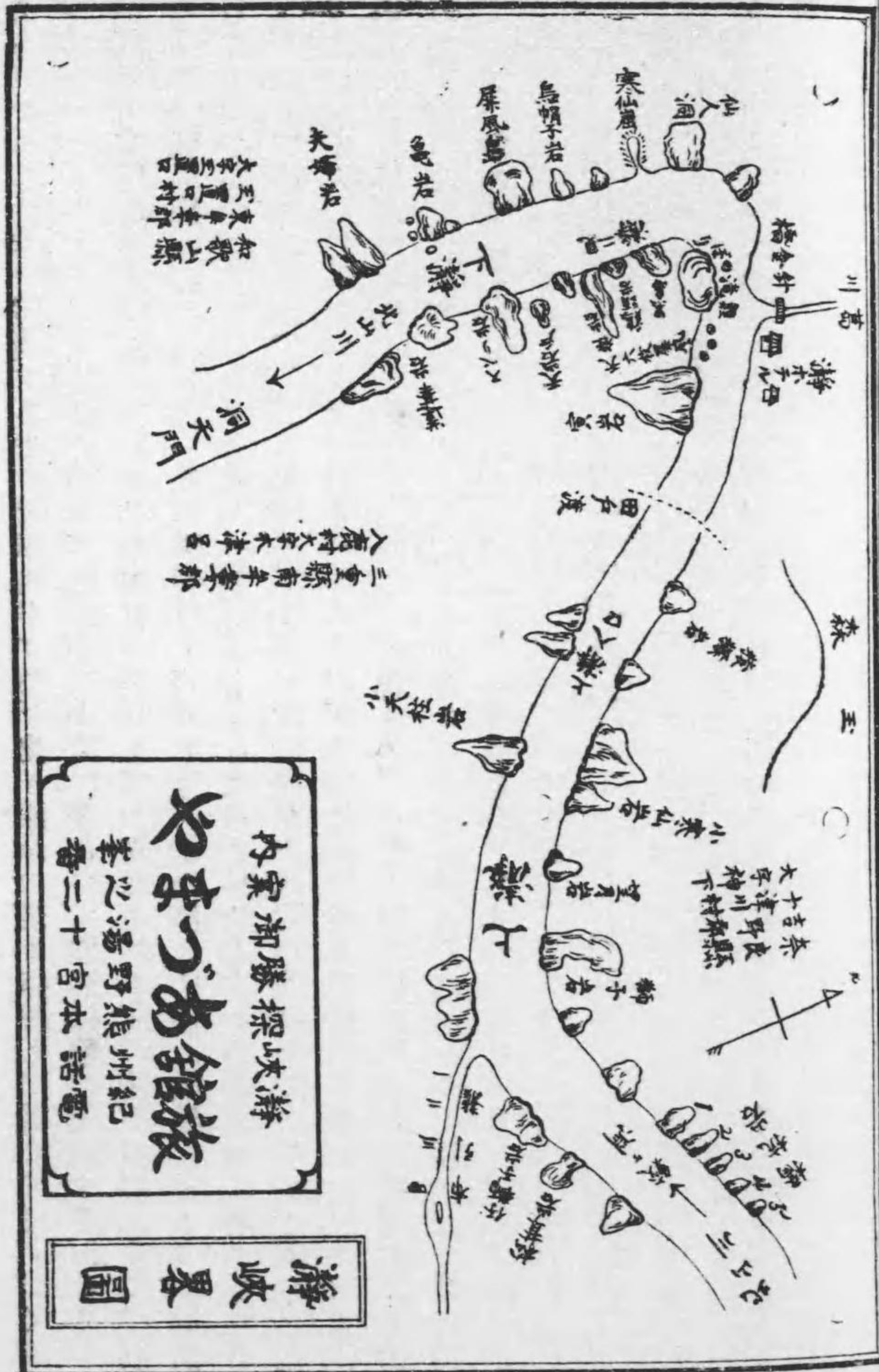


(景勝の瀨奥)

瀨峽

に或は横に伸びて奇景百態を現出し時に平坦に出るとまた疎々として斷續する赤松林が斜陽に映えて稍々長閑なる光景を現出してゐる。「瀨はまだか」と舟子に亦訊くと依然として頭を横に振つてゐる。門前既に此の勝景あり門内の瀨峽いばかりぞとそぞろに胸の高鳴るを禁ずることが出来ないのである。

瀨峽の入口は即ち洞天門これぞ仙俗の分岐するところ
兩峯削立偉大なる石門を開いて將に神仙の幽居を驚か
さんとする俗人輩何んとなく物凄じ感じがする。船は
此所に蓋布を刎ねて客は總立ちとなると見れば門内深
碧の水湛々浚んで流れず四圍の絶壁數十仞緑樹紅葉と枝を交へて
影を水面に寫し巖頭に据して綸を垂るゝ一人の若者之れも一個の
好點景をなしてゐる。客は聲を呑んで凝視し船もプロペラの響き
を潜めて靜かに迂る崖角みな奇峭峻拔一轉すれば光景また一轉再轉無言の驚歎を乗せて船は徐かに
徐かに神秘の奥深く進む。一鳥啼かず一枝習がす太古の幽幻閑寂なごやかに水を切つて進む舟の音



内案 湖勝探峽瀨
よまづあざな
峯之湯野熊州紀
番二十宮本話電

瀨峽畧圖

さへも何かしら神聖を冒瀆するやうな氣持がする。舟子兩岸の岩を指點して説明する、曰く右岸（向つて左）にある大小二個の濶乎たる岩は夫婦岩上流に連なつて龜岩は龜の匍匐するが如く、屏風岩一削立百丈屏風を立てたるに似て其の先きに烏帽子岩の亢然たるあり、皆その形によつて名付けたるもの。龍潜窟は豎に細長き一條の皺裂けて岩罅を見せその奥には優に數疊を敷くべく遊仙洞、洞口廣く川に向つて開き其の中暗冥このあたり水最も深く藍碧愈々濃やかに蛟龍の潜めるかと思はるゝばかりである。左岸（向つて右）の奇勝また右岸に劣らず八葉の蓮華を開ける如き蓮華島滑かに聳り立つ滑岩天岩戸はその奥計り知るべからず、天柱岩は元立數十仞蒼天を刺すホコの如く鷄冠島大黒島、六枚屏風など皆その形に附したるもの尙多かるべしと雖も所詮は無用の贅名これ等幾多の奇岩が偶然相倚つて一個神韻縹渺の幽幻極まりなき一大天工造化至妙の奇勝を現出してゐるのであつて一個一個の奇巖そのものが獨立しては多くの價値を有するものではあるまい。

瀨峽の神秘に抱かれた

瀨 ホテル

國立公園聖地瀨峽の神秘に抱かれた瀨ホテルは同一場所でありながら本館は奈良縣に屬して別館は和歌山縣に屬するといふ一ツの建物が二縣に跨る奇觀を呈してゐる。ホテルの景趣は實になんとも



◎瀨ホテル…と

…景絶の峽瀨

言ひ得ぬ絶佳の眺めである。仰ぎ見れば老樹蔚然として高く頭上を蔽ひ俯して臨れば峻崖幾千尺の瀨峽、激流は之に迫り洪濤ポウハイとして奇岩怪石を嘯み瀆注は摧けて白玉を飛ばしその壯觀は眞に大自然の神秘である。新緑の頃には山一面に石楠花が咲き溪流には瀨特有の美音玉を轉ばすやうな河鹿と「ほととぎす」が啼く、裂帛の一聲鋭く天をつんざき餘韻陰々として青葉が薫る溪谷にこもる時、詩魂なき者さへも一種異様の感興を與へられる。初夏の頃から七月末迄は躑躅が咲き亂れ静寂の溪流に映るのは殊更美事である。八月の避暑には關西唯一の場所、秋は全山溪流の兩岸は紅葉に彩られてゐる。ホテルも國立公園に選定されて以來瀨峽探勝者が激増し時代の要求に應じ設備も近代の様式を取入大改築し國立公園に存在する國際的ホテルとして實に堂々たるものである、しかし宿泊料の如きも極めて奉仕的にて宿泊は二圓五十錢以上四圓迄、中食

は一圓以上二圓迄・料理も山奥に似合ない乙なものを供し特に若鮎の料理はホテルの誇りである。

新興の新宮市

紀州神邑新宮の名は天下の愛稱である。新宮は人口三萬三千を擁し山と川と海の幸がガチリと握手した熊野文化の發祥の地にて新秋十月一日から新らた市制を施いた新興の都市である。

新宮市の名所史蹟

熊野速玉神社

は祭神伊弉諾尊の御子熊野早玉神を祀る。その初は新宮市の西端神倉山に鎮座せしところ景行天皇の御宇今の地に遷し新に社殿を建つ因て新宮と稱せり。

新宮市著名旅館紹介

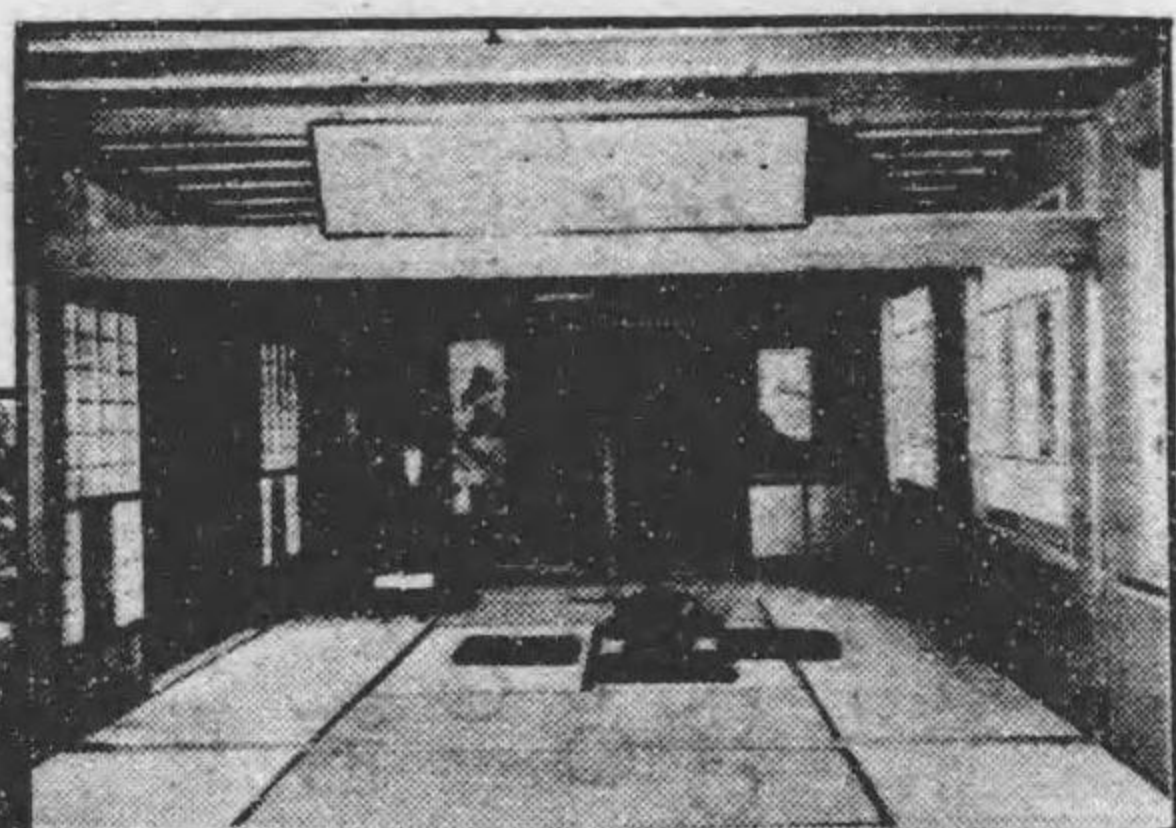
新宮市第一流の

旅館 油

屋

新興都市新宮市で宴會の二百人以上も即座に引受けて手際よく應待然も優れた庖丁の切味と氣のよ

客室と…



庭園……◇



さを以て京阪神地方の同業者に比して何等の遜色もなく満足を興へ或は一日の旅塵を洗ひ落してのんびりと落着。靜に圓ろやかな夢を結ばして呉れる氣持のよい旅館と云へば南紀廣しと雖も新宮の油屋旅館の右に出るものはなからう。これは強ち筆者が太鼓を叩く迄もなく一度同館の門を潜つた地元の人素より京阪神は勿論遠く東京、朝鮮、臺灣方面の知名の士がその旅館設備萬端、その料理、其他サービス氣分によさに一遍で魅せられ異口同音に放つ禮讚の聲であるから間違ひはない。流石は南紀唯一金看板の名に背かない實に旅館油屋は新興都市遊覽探勝都市名勝史蹟の豊かな新宮市の誇るべき存在である。殊に別館の青苔蒸した庭園の植込み築山等も鹽梅よく配置し誠に新宮市第一流旅館として恥しからず客室は勿論、浴室、寢具は申すに及ばず便所の隅々までなにくれとなく心を配つてあるのはなんとなく喜

ばしい。帳場―女中のサービスも細かい點まで萬事に注意し假令一杯の茶に接するにも些かの輕薄なる素振りなど薬にしたくもなくその言葉動作共にしとやかで實に氣品のある高尙でしかも大衆的の居心地好き旅館として定評されてゐる。

油屋旅館の内容

●本館並に別館 共に三十室

○清冽廣大なる浴室數室

●娛樂機關 新古共に完備

宿泊料並に中食料

宿泊料 二、〇〇 二、五〇 三、〇〇 三、五〇 五、〇〇(別莊)

中食料 〇、七〇 一、〇〇 一、五〇

夕食料 一、〇〇 一、五〇 二、〇〇

尙本店は割烹店としても新宮では有名な店、新宮で「料理！」と云へば誰しも「油屋！」を聯想するほど有名な料理亭林泉閣、新宮へ杖を曳くものまづ油屋の門を叩くことを忘れてはならぬ。

浮島の森 浮島の森は面積千五百餘坪あつて内務省から天然紀念物に指定された。新宮市の

飛鳥神社新宮城址

名所のみならず實に日本の國寶である。島内で眞瑜の細長い圓棒を下すと底知れず、ずん／＼入り足踏みをするると地響がして全島が揺れ雨降れば千五百餘坪もある大きな島が浮き上り、水が引けばまた元の通り下ると云ふ不思議の島である。數年前に熊野川が大洪水の時附近の人家は屋上まで浸水した。その時矢張この島も附近の人家と同じ高さまで浮き上つたそうである。島内には寒熱兩帶植物が數多く巨杉老松靈楠等が五百餘本鬱蒼としてゐる。島には上田秋成氏の雨月物語「蛇性の淫」のおいの傳説洞穴がある。

平家物語に現はれてゐる「三位入道維盛新宮へ來參られ、神の座を拜し給ふに岩礁高く聳えて嵐妄想の夢を破り瀧水清く流れて塵埃の垢をすゝぐらんと覺えたり、飛鳥の社伏拜み佐野の松原さし過ぎて那智の御山に參り給ふ」とあるのが實にこの飛鳥神社のことである。東京で有名な飛鳥の王子はこの權現を勸請したものである。

新宮城を最初築城したのは堀内氏虎であるがしかし堀内氏の以前に於ても源爲義の末子新宮十郎義盛は治永四年高倉宮以仁王平家追討の師を起こされたときに令旨を奉じ諸國の源氏をむかえた人、後に行家と改め頼朝に事へたが謀反して滅びた。最初築城した堀内氏が居城したのは天文年間のことである。氏虎は有名な熊野別當堪靜の後孫で威を四方にふるひた豪勇の士であつた。その後淺野氏の領地となり元和五年三萬五千石を以て紀州の家臣水野氏の居城となり王政維新に至つたのである。城址は新宮市の東方熊野川の清流に臨み眺望頗る

佳し

頗る好評の

油庄旅館

新宮は熊野文化の都であり、名勝の地である。天下の奇勝瀨を始め探ぐるべき名勝史蹟が數多點在してゐる。随つて新宮市には遊覽探勝の旅行者が集まる。それらの旅客の間に方今評判になつて居る新宮市の旅館中最も信用隆々頗る好評を博してゐるのは、**あぶ庄旅館**であらう、何故あぶ庄旅館は頗る評判が良いかと云ふと、**あぶ庄**は第一に親切で勉強するからである。料理も最も新鮮な材料を使つて最も低廉に美味をモツトとしてゐるから客足も自然に増えてゆく。清潔で庭園の配置が佳くて居心地が良いからである。

元來**あぶ庄旅館**の經營者畑中庄七氏は眞面目な人格者で他の商人のやうに無理をしてまで儲けやうなんて頭は少しもないどころ迄もお客本位の最も堅實なる商法で今日まで鍛へ上げた人である。だからあぶ庄のモツトは飽迄お客相手の商賣だからどこ迄もお客を大切にお客の氣に向くやうに――と云ふた風の家憲だからお客たるもの有頂天とならざるを得ない、とにかく感じの好い旅館として今南紀で巾を利かせてゐるのもこうした理由からであらう。

あぶ庄旅館の内容

●客室 三十八室

●收容人員 八十人

●娛樂機關 完備

宿泊料並に中食料

宿泊料 松：三、〇〇 竹：二、五〇 梅：二、〇〇 花：一、八〇
 中食料 〇・七〇以上一、二〇迄

但旅客の希望に依り特に相談制度もあり

◎特別サービスとして驛より自動車を送迎をしてゐる。

秦徐福墓

新宮驛の東一町老樹鬱然たる處に徐福の墓がある。徐福は始皇帝の苛政を怖れて不老不死の靈藥を我邦に求めると帝を欺いて今から凡そ二千百三十二年前に童男童女數百人を連れて海を航して永住の覺悟でこの地に殖民したのである。古は七塚といつて徐福の七臣の塚があつたそうだが今はその影すら残つてゐない。

神倉山は速玉神社の南七丁の處にありて千穗ヶ峰に連つてゐる。神武天皇御東征の砌熊野邑に至り

神倉山

天盤盾に登らせ給へるは即ちこの山にして皇祖創業の高倉高倉下命靈劍を武甕雷の神から授かり之れを天皇に捧げたる古蹟なるを以て昔はここに高倉下命を祀つてゐたそうだが、又新宮の市民は奥の院とも稱してゐる。中世歴代の諸帝熊野に行幸遊さるゝや必ず御登山せらるるを以て例とせられたるそうである。山頂は大熊野洋を一望に收め眺望頗絶佳である。

新宮市の旅館で一番古い

四百年から永續の清水屋旅館

新宮市の馬町は昔から旅籠屋町と言はれる程旅館が軒を並べて居る。それは舊藩時代に馬町に限つて旅館を許したからである。其内でも清水屋が一番古い。新宮市街を通行する時表構への一風變つた高雅な新しい旅館が目につくであらう、玄關の兩側に「濱ゆう」の生ひ茂る南國情緒の溢るゝ旅館こそ我等の旅館清水屋である。

何が清水屋をそう永續させたか、それは清水屋が持つ先祖代々からの誠意の表はれであらねばならぬ。この誠意こそ凡てのサービスの基礎である。清水屋は決して山師的なことをやらない。何處迄も誠心誠意顧客に對して忠實である。以前から茶代を絶対に申し受けないのも其現はれである。それで他の旅館の様に誇大な広告や宣傳はしないで、どこまでも地味であるが、誠意のこもつた待遇

には客から客へと自然的に宣傳が出来ていつもお馴染客で満員である。

古い旅館と言へば室の小暗い壁の穢れた、どこか陰鬱な旅館を想像するが、清水屋はそうでない。最近全部建設した最新式の建物で室内の設備は言ふまでもなく、便所、風呂場、洗面所などまで天井が高く、光線が行届いてゐるのも明るい朗かな氣分が漂うた氣持のいい旅館である。

「新宮は古への熊野神邑であつて名所としては神武天皇御遺跡御手洗の濱に神倉山、熊野三山の一たる官幣大社熊野速玉神社に東京飛鳥山權現の本元たる阿須賀神社、秦徐福之墓、それから世界的奇觀であり學界の珍寶とも稱すべき面積千五百一坪の全島が水に浮游してゐる大木を乗せた浮島の森があり木材の集散地だけに堂々たる熊野地製材工場、王子製紙工場など新宮街激賑の根源が窺はれる。又情緒纏綿たる南國美人を誇る新宮花街大王地的美妓、浮島遊廓等々山水風光の大自然美と共に遊覽客を心から迎へてゐる著名旅館としては「油屋、油庄、清水や」等……あり、何れも料理兼營で又料亭としては林泉閣、養館など遊地としては珍らしい肅酒なものもある。

もう一ツ新宮には特筆すべき名物とも云つてよいものに、父の代には古く明治三十三年に大正天皇東宮にましまして御時熊野百景を謹寫献上して現嗣子に續いて更に謹寫景勝を天覽台覽の榮に浴する事七度、長くも 聖上陛下 潮岬に御臨御の御砌には特に御聖姿を謹寫仰ぎ奉るの光榮を擔つてゐる久保寫眞館主久保嘉弘氏は素人日本一とも稱せらるかくし藝寄術の研究家で種目四百五十種に及び女人もはだしといふ素晴らしいものである。

徳川頼倫侯や国立公園調査員や大臣貴賓からは同氏の演藝を熊野の國寶として喜ばれてゐる。曾て宮殿下の台覽の榮も得たりときく。熊野各地方のエハガキの大半は同氏の撮影にかゝるもので彼の寫眞技術は人物に於て風景に於て都市一流寫眞家を壓すの技を持つてゐることも不思議である。往々旅行団体撮影に招かれては心よく引受けて撮影旁々彼の妙技手品や魔奇術を惜げもなく公開して旅情を慰めてゐる。氏は国立公園への猛運動者であり殊に水電の爲めに破壊されんを嘆きては殆んど自己を捨て、彼の奥海保勝に盡瘁をつゞけてゐる。氏は正に旅行者の好同伴であり愛郷の士である。そして郷土民も同氏へは感謝と敬意を表してゐることも事實である。

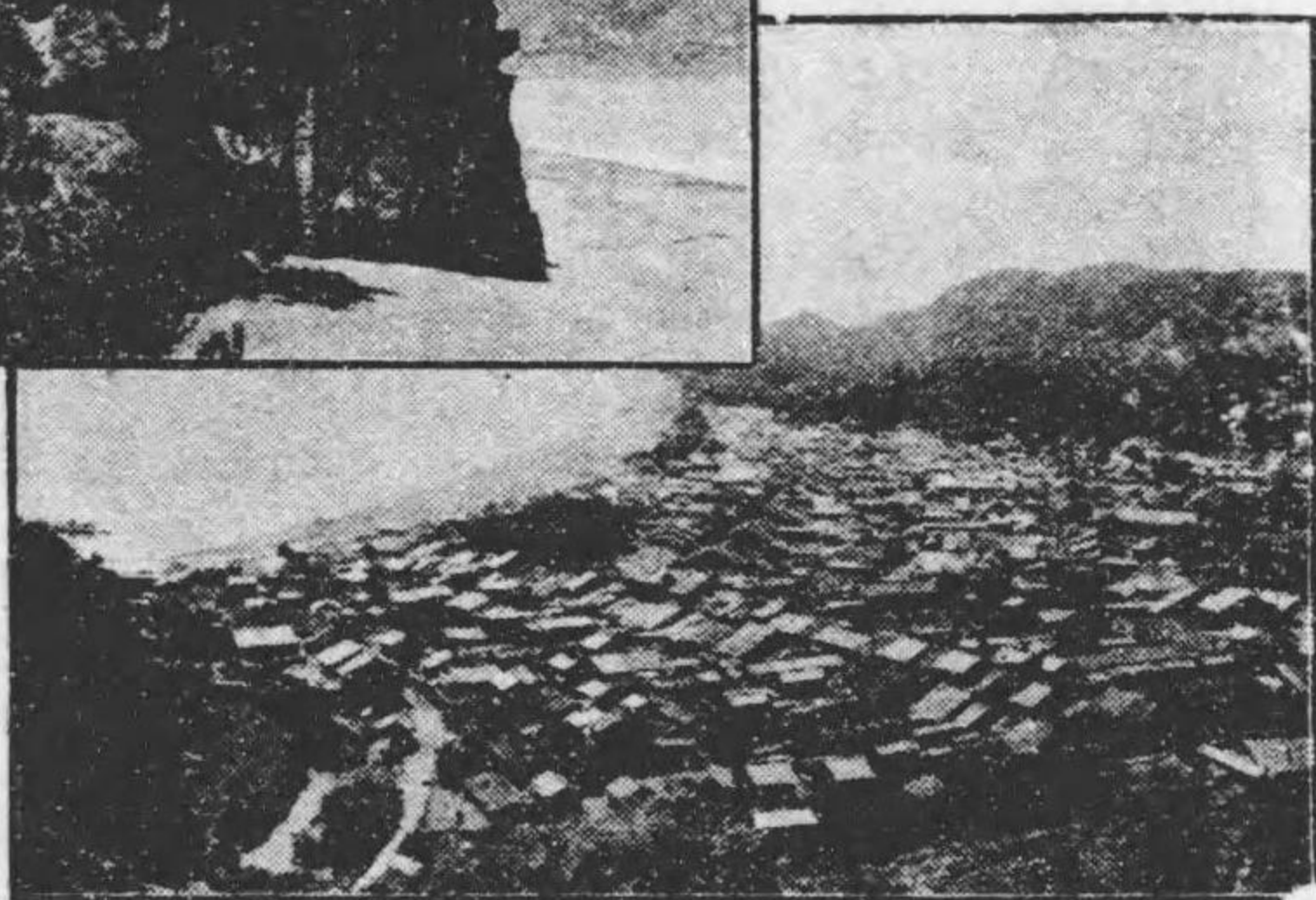
新宮から鬼ヶ城へ(木本町)

木本町は舊幕時代に三萬石を支配した和歌山藩の代官のあつた所で、南牟婁郡の首都である。南牟婁支廳・木本區裁判所、木本事務所、縣立中學校、縣立女學校、木本警察署の諸官廳と紀和銀行本店、三重農工銀行支店、大同銀行支店、三重無盡會社本店、木本信用購買組合の經濟機關と三芳索道株式會社、南紀自動車會社、三和自動車會社、攝陽商船取扱店などの交通運搬機關と紀南新聞社と二ヶ所の劇場と公會堂で外貌ははつきり浮び出される。人口六千だが町の家屋の建ち得る所は空地ないほどぎつしり建つてゐる。物資の集散地として片濱の港であるが古い歴史をもつてゐる。木



獅子岩

木本町全景と



材と水産物は主要の産業である。
一年の輸出入額二、八三六、四七五圓

鬼ヶ城

戦慄すべき奇勝鬼ヶ城を見ればもし熊野海岸の勝景の總てが平凡に歸するの恐れがあると沖野岩三郎氏の鬼ヶ城觀である。

雄大豪壯の鬼ヶ城南入口から爪先上りの石階段とだら／＼道を登ると辨天神社の鳥居前から十數町の間一大巨巖の別天地で數多の洞窟は天井の前端が著しく前に突き出し殆ど垂直に下に向きその先が双の様に薄すく、鳶の嘴の様に曲つてとがり奇形をなし、洞窟の底が砥石の様に平らかで五つの階段に配列されてゐる。石英粗面巖で殆ど割目はないから此様な奇形をあらはしたので其々階段に波蝕の痕跡が著しい、その波蝕痕が所によつて二段若くは三段の小階段をなしてゐる。此大階段は劃時代的地震に隨伴して土地の突然的隆起からこの

様になつたのである。巖石の表面は寫真にある月世界の表面の様にスポンジの肌形をなしてゐる。進み行くまゝに廣大無邊の海の色は此巨巖に雄渾の趣を添へ磯の匂いが次第々々に深くなる様な氣がする。高く低く作られた磯の道を左に折れる所に數十丈の絶壁から清冽な水流は楚々として白玉を砕いてゐる。巖角に穴を鑿ちて洞窟内にひいた上下二段の水廉は遊覽者にいろんな同伴となつてゐる。こゝは水谷と稱して或る文士は此處は見る所許りでなく遊ぶ所だと批評されてゐる。

水谷から少し登ると蜂巢窟に至る。蜂の巢其まゝ天井から深く淺く垂れて鳩位の蜂があつたら此様な巢を作るであらう。日本畫家から見ても醜態として全國稀に見る立派な参考品である。此處は股覗きで御濱一帶から遠く勝浦太地崎に至る迄碧空を背景にして爪先を眺めると天の橋立の股覗きなどと異つて造化の技巧を感じしめられる。數十間ならずして巖壁を破つて鞆々と濤聲は響く、これは飛び渡りと稱して中央部の隙罅を飛んで渡つた頃の名残で底深く海水は湧躍しいつとなく人の魂を呼びとめる。

鬼の見張場は三つの洞窟が連続してゐる。昔は鬼賊の望樓であの爛々たる眼光で網を張つた様が思ひ出される。鬼は何處で生れて、どんな因縁で此荒磯にさまよひ來て人を惱やましたかわからないうがここの鬼はこぶとり鬼の様なユウモアのものでなかつた。

少し下れば巨鯨の様な巨巖が海中に横はつてゐる。ここは汐吹きで満干に従ふて碎け散る浪の花に五形を嘆じ、兩側の大渦小渦沸湧して互にもみ合ふ様は動的海洋の面白さにしらす足を留める。

八百萬貫の巨巖のあはれ波に亂れた二三百貫の石が碁布してゐる所を通り抜けると數百尺の一大絶壁が海に迫まつて断ち切つた様な所に出る。犬戻り猿戻りの勝で浪にゆらめく黒髪の高鳴る響と共に水際を洗ふ飛沫の情景は全然趣を異にしてゐる。

海の香に酔はされて一步々々と進み行くうちに突如として惜氣もなく展開される自然の美、其は鬼ヶ城の千疊敷である。高さ百尺、洞窟内が廣いので此稱が生れた。左側に階上があつて數百疊の廣さがある人力で勝手に動かす事の出来ない力と美の合致、過去現在の融合に自然の偉大さを無言のまゝ語つてゐる。

雄大で、峻峭で、天險で伊勢へ七度、熊野へ三度の交通路に近い鬼ヶ城は鬼賊たか丸の理想的栖家であつた。坂上田村麿は征夷大將軍として討伐に下向し馬を進めたが千丈の巖壁は聳え脚部に浪は雪と崩れ、岩上より矢石を飛ばし防ぎ戰ふので將軍は徒らに軍兵を失ふことを恐れたから千木の磯邊から軍船で押し寄せたけれど海は荒れて一瀾一波哮りに哮つて岸邊に近づくと事が出來ない、慘憺たる雲行は益々悪くなり軍船を歸へさんと色めき涉つた時將軍は守本尊の觀音を船中に安置し一心不亂に祈願すれば白馬に跨つた一人の童子現はれ天空を駈つて沖邊の岩上に駒を止め軍船をさしまねいた。急に荒れに荒れてゐた浪もけろりと忘れた様に静まり、是れにて鬼賊を征てと弓矢を授けられた。此岩をこれより魔見ヶ岡と名けた。

いつとはなしに猪の鼻邊りから白い雲が湧き出で其脚は海面をすべる様にゆるやかに鬼ヶ城に流

れ行く、雲の脚にかくれて軍船は近よれど巖上から見えないで船中から隅なく見えてゐる。矢頃はよしと龍魚諸鬼難 念被觀音力と唱へながら大慈の弓に大悲の矢をよつ引いて放てば多蛾丸の胸板を貫き亂闘の中に手下共は征ち亡ぼされた。此鬼賊どもの妄執が凝り固つて數ヶ所の洞窟内に鬻體皺となつて残つた。

童子は再び白馬に跨つて北嶺の彼方に飛び行かれた跡を尋ねると一丈四尺の巖窟で法性無漏の淨境であるので、守本尊の千手觀音を安置し治國平天下と祈願せられ、京都の音羽山清水寺になぞらへ比音山清水寺と號したが、清水瀧は直下二十丈ある。

千疊敷から北に迫ると平床橋に至る淺道は石壁を縫ふて技巧をこらさぬ荒木作である。其より景趣一變して松杉雜木は道の兩側に繁茂して東口に至る。

宮川を控へての海水浴場、游げるものにも游げないものにもよく、海水浴後水浴がでさるので少しも汐たれる様な事はない。砂美しく水清く、空氣は澄んでゐる。

都會風に染まつてゐないので質素である。泊女子青年團の奉仕と相俟つて氣分がよい無邪氣な海水浴場である。

泊海水浴場

秦の始皇は不老不死の藥を東海蓬萊の嶋から拜集せよと徐福に命じた、徐福は山東から船出したが途中難破して漂着したのが木本から東西一里半、新鹿村波田須矢賀の里で、居る事

文宇岩

數年にして新宮へ移住した。橋南谿は徐福の舊地に近いのでここに五言絶句を大書し殘したのを里人が彫つたのが此文宇岩で一字方一尺五寸ある。

驚去徐仙子 深入前秦雲
借問超逸趣 千古誰以君

萬里の長城は新滿洲國境として始皇の半面を語つてゐるが徐福の傳説は木本に行人の足跡をとめてゐる。

火花と怒濤

八月廿一日木本の花火と九月中旬御三濱の怒濤(ある年とない年とある)は熊野の誇である。明け放した大自然の砂濱至る所に夢の世界は現出する。空中高く破裂する數百種の打揚花火、途徹もない大仕掛の作り花火、うまいぞーすてきだわと自然の發露は拍手と交歡曲となつて、短慮で性急で焦燥である近代人の心を誘ふてゐる。文字で盡せないのは木本の花火である。

九月の怒濤、直立した茶褐色の浪が一端から崩れて灰色の雲を巻きつゝ矢の如く渚を走つて砂飛ぶ凄さは何とも曰へない壯觀である。一日ちう怒濤の打ちよする様を見てゐてもあきたらないと堤防の上に蟻の様に人が連なつて見てゐる。

松原情調

旅行して一番困まるのは雨である。ぬれて嬉しいのは情の雨である。其々異なつた趣はあるが、愉快の旅の心、昨日の晩あの松原でと浮氣の蝶々の夢まどろみ

ながらごろりと横になるのも趣味あるもので、之が爲に旅の心はそぞろに動く、若い美しい酌婦が多くあつて安いのには松原である。

獅子巖

獅子と名の付いた巖は全國に多いが、高さ海面五十メートル鬼ヶ城の洞窟と全時代の成生であつて、此程完備したものは少ないと脇水博士は曰はれてゐた。この巖は大馬權現の呵咳の巖の呵の方で狗犬として全世界第一の大きなものであらう。

伊弉册尊の神さりと給ひし神陵地で日本書記に

「伊弉册尊生火神時 被灼而神退去矣 故葬於紀伊國熊野之有馬村焉 土俗祭此神之魂

者 花時亦以花祭 又用鼓吹幡旗 歌舞而祭矣」

花の窟

花の窟は一大石壁で高さ二十八間其正面に櫃を作つて玉垣を廻らしてゐる。偶像もない、宮殿もない 神代ながらのまゝに白い砂濱の邊り崇高偉大の自然の靈域は人まして敬虔の念を起こさしめる。

祭典は二月と十月に行はれる。「お綱かけ」と稱して長さ 百尋の繩を七筋集め一尋づゝの所で離れない様にゆはへ 是に十五尋の繩二筋を縦とし 一尋の竹三本を横に梯形にくくり、別に繩を竹と竹の間に斜にかけ幡旗の形をなして花と扇で飾り、神蹟の上空になる邊りへ結へる。淨衣に身を清めた氏子は身の毛もよだつ巖頭に上つて、三十三尋の太い繩を地上に下げ、七筋百尋の繩を巖上

七里濱の松原

に引き上げ、後方の大木にゆはへ他の一端は神苑南隅の松樹に括る。翩翩と翻る繩旗、太古の神韻は漂ひ無限の趣がある。此大繩大幡旗は一大巖壁と調和はとれて壯重雄大な祭典である。女神にふさはしい花祭りと 日本書記から歌舞の神として信白されてゐる幡旗に結ぶ花と扇は風のまに／＼童舞の趣がある。花の窟は神話に生れ 神話に生き永久に神秘の所で「鯨の花の窟参り」などと小さい蟻の熊野参りに對照して變つた所である。

三十三所名所繪圖に 木本の港より新宮に至る街道にて右の方は並木の松原百數十町連なり、左は東南の碧海渺々として白浪磯に打ちよせ、向ふ新宮の岬を見はたし、沖邊を走る大船、釣する漁の小船など風景言語に絶す、實に旅中第一の風景と曰ふべし。と讚美されてゐるが此間直線上の海岸をなして紀伊半島の海岸でこの様な所は外にない。赤松黒松兩生して海濱として珍らしい林相である。藩主元和五年入國の際舊地濱松から移し植えたとあるが、古い記録には松林であるから補植したものであらう。享保年中拂下げ伐材されたが現在では鬱として立派な國有林となり、國立公園編入の後には特種の施設をせられる様である。松原を貫通する道路はドライブウェイとして躑躅咲く春、螢飛び交ふ初夏、草葉にすだく虫の音の秋、月に霞に四季を通じて日本一であらう。

此國有林中阿田和に化粧水と曰ふのがある。三百年以前 外側は厚い銅板で張り詰めた一艘の怪

しげな船が此海濱に漂着し、年若い美しい一人の姫君があらはれて、附近に耕作中の農夫に身の振り方を頼んだ、黒い瞳美しい頬で凝つと下から見あげた、言葉は通じないが高貴の姫君であらうといはつた。好奇と満足とが其微笑のうちにほの見へ附近にある。泉を汲んで化粧せられた。里人は化粧水と稱へ、之を用ゆると美人になると傳へてゐる。姫を埋葬した「雅子の塔」附近一帯の丘陵は松茸狩の勝地として眺望を兼ね備はつた所である。

小松原と鯨

明治九年十月軍艦雲揚は暴風雨に遭ふて小松原(海岸の字名)に打ち揚げられ、艦長以下七十五名の乗組員中二十三名は殉難した。艦の長さ廿一間巾四間であるが當時の日本として相當重要なものであつた。日露戦争の際浦鹽艦隊に向ふた上村司令官は當時候補生として乗組んでゐられた。

熊野九十九浦の浦鯨船はすべてすたれてしまつた。阿田和も其一浦であつた。寒空を物ともせず裸体に白木綿を巻付け、さんぶと躍りいつた雄姿と動作を語る。早鋸、平形鋸、柱鋸、萬鋸などの漁具は町役場に陳列されてゐる。探るも變つた資料である。

瀨への陸路

阿田和町から西山村入鹿村への自動車は僅々一時間半で行かれる。西山村平谷から徒歩一里で奥瀨へ達する。奥瀨近く御水垂瀧は巨巖吃立して古木雜草が生ひ茂り、其間を瀧水は落下するので巾

の廣い瀧で他で見られぬ奇觀である。

入鹿村終點から數町で口瀨へ行かれる。入鹿村小栗須に入鹿鍛冶の屋敷跡がある。阿波の十郎兵衛が國次の刀詮議のためとある。此刀鍛冶の遺跡である。

「那智詣で」

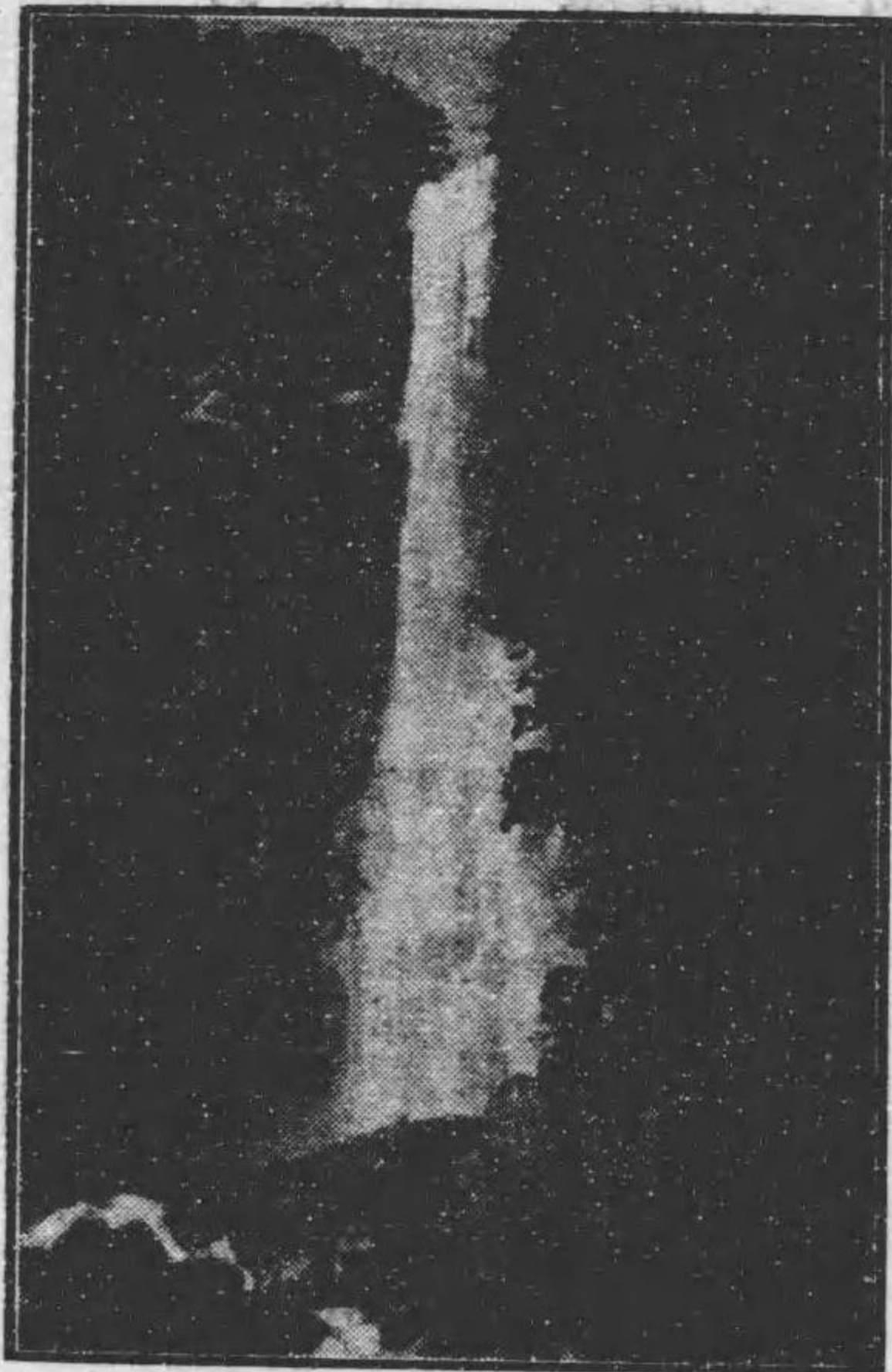
新宮の名勝史蹟をめぐつたらせむ、那智觀音、那智神社、妙法山へ參詣せなくてはならぬ。那智へ行くには新宮から新宮鐵道で那智驛に下車するか或は勝浦で一泊して勝浦から自動車で行くのもよい。新宮驛から那智驛まで二十分、勝浦から那智の瀧前迄三十分、賃金は片道七拾錢、往復一圓二拾錢、妙法山へは那智から片道六拾錢、往復一圓である。

私は勝浦から自動車で那智山參詣をすゝめたい。それは沿道至る處に高々と聳えた棕の樹つやゝかに陽光に照りかへす潤葉樹、萱の軒に萱を藏めたる靜寂の山村の景は實に南國情調が溢れてゐるからである。

那智の瀧

那智の瀧は天下の名瀑にして飛瀧神社の御神體である。自動車は瀧のすぐ前まで通じてゐる。で、車を降りてだら／＼の石段を降ると邊り一面苔と水の匂が爽かにブンと鼻をうつ、斷壁幾千尺の縁を押しわけて直下八十餘丈、轟然として雷の轟くが如く山谷震撼

して遠く數里の地を驚かしてゐる。思ひ切つて瀧壺に近かづいて邊りの巨岩の上に立つて瀧のしぶきを浴て仰ぎ見上る時には初めて飛瀧権現の神巖と瀧の魅惑と豪壯美に思はずアア……豪壯、壯觀



(瀧の智那瀑名の下天)

……叫びが亂れ飛ぶ。

之れを一の瀧として二の瀧、三の瀧と次いで所謂熊野四十八瀧をたづねて妙探りて更に興盡せぬものがあるが通りすがりの探勝者には到底果せるものではない。

文覺上人の瀧

らう、この瀧は敢て雄大と稱するほどの價値がないかも知れんが文覺上人は京都にて痴情の爲めに袈裟御前を暗殺し翻然道心勃發し剃髮黒衣佛法に歸依しこの那智の靈山に來り瀧壺に佇立荒行し犯せし罪科を懺悔し未來の佛果を祈念せしに由りて文覺上人荒行の瀧として世に廣く知れ渡つたもの

那智の山中には數多の瀧が點在してゐるがそのうちで最も歴史と傳説とを有せるものは文覺上人荒行の瀧に勝るものはな

である。探勝の人々は一度那智山に杖を曳かば必ずやこの瀧を訪ひて文覺上人の在世を偲ばれよ他に熊谷次郎直實が瀧に打たれて蓮生坊となつた有名な瀧もある。

熊野夫須美神社

瀧の近く今の地に移し神殿を創建したのである。御神體は伊邪那美尊事解男尊を祀り社殿は十

三殿頗る壯觀美麗にして那智の瀧の鞆々たる響音は神域を一層淨化してゐる。

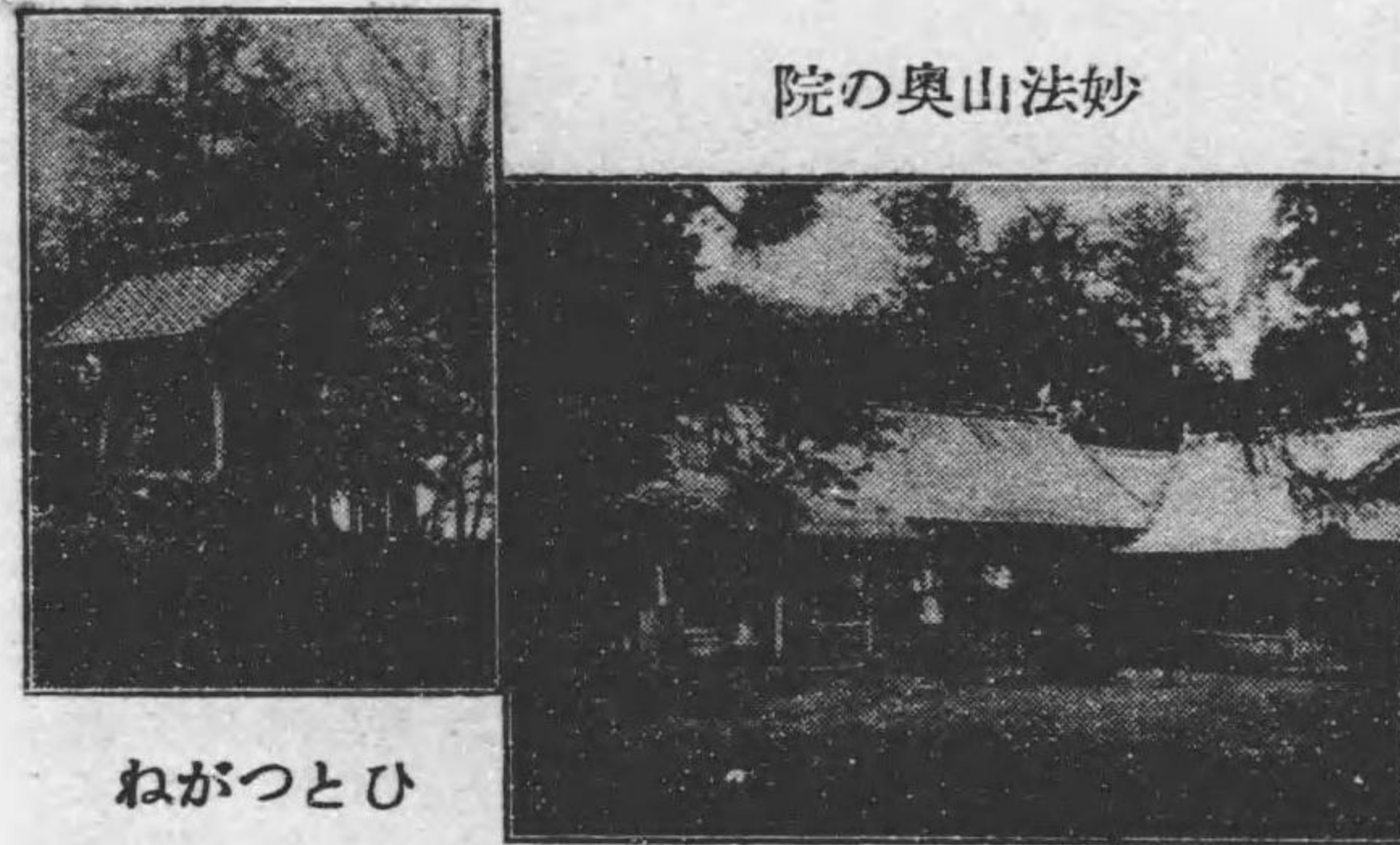
青岸渡寺

は瀧から更に五丁のところに西國三十三番第一のお札所、所謂音に聞く「補陀洛迦や、岸うつ波は三熊野の、那智のお山にひびく瀧つせ」の御詠歌の青岸渡寺、當寺の御本尊は一面觀世音菩薩にして光仁天皇寶龜元年爲光上人は佛法弘通の爲め我國に來朝し偶々この山麓千手谷燈明松の邊りにて千手觀音の靈像を得得し勸喜の念禁じがたく海に面して一宇を建立し更に十一面觀世音菩薩の尊像を刻みて上人感得の靈像を其胎内に安置し奉り當寺の御本尊としたのである。後白河法皇の勅願所となり爾來法燈燦然として宇内を照らしてゐる。觀音堂の裏は深山で晴れた風のない靜かな夜には三寶鳥が獨特の妙音で啼いてゐる幽靜閑寂の淨域である。

妙法山

は那智山の南嶺で那智神社より約十五六丁登るのであるが海拔三千尺の高峰の山巔に妙法山阿彌陀寺があり當寺は人皇四十二代文武天皇の御宇大寶三年唐の蓮寂上人が我國に渡來し當山に登り延々たる熊野連山が脚下に伏し、一碧萬里水茫乎として際涯なく狂瀾怒濤の熊野洋

院の奥山法妙



ねがつとひ

『寺 陀 彌 阿』

の大觀を一時に收め岸打つ波の音は山嶺の松風に和し、さながら佛法の妙法を説くが如き神秘の淨域を喜び一千日の間鍊行ましまし、衆生得脱のために一字三拜の妙法蓮華經を書寫して山頂に埋め釋迦如來を安置し給ふて妙法山と稱したのである。弘仁六年弘法大師熊野御巡行の砌山頂に於て眞言の秘法を修し給ひしとき日々何處ともなく亡者が一本の檜木を持つて詣るものが絶へないので大師はこの靈異に深く感じ山腹に一字を建立し阿彌陀如來を安置し萬靈廻向の本尊となし給ふたので寺號を阿彌陀寺と稱したのである。大師は在山の日無遮の大會を行ひ萬靈の供養をなし給ふこれが當山納骨堂の始めである。爾來遠近の男女縁者の齒髪をこの山に納めて追善廻向すること今日に到る迄現生安穩の樂を與へんとて四十二才の御自像を當山に留めて末世衆生の擁護を誓ひ給ふ靈驗の日々新たなるは世人が崇敬止まざるところである。

當山には妙法山の「ひとつがね」といふ梵鐘がある。世俗に



瀧の智那るた見りよ亭山美

亡者の熊野詣りといひ傳へ人死するときは幽魂必ず當山にまわり一の鐘をつくといふ靈鐘である。當山の阿彌陀堂に年中常燈明を點して佛に供養するは亡靈の冥道を照らさんとする意なり。昔大阪難波の骨接ぎ石谷源左衛門が逆縁の悲しみを見たる一子宗教童子の菩提を弔はんとて當山に登りて一子が成佛の驗を見せし奇しき因縁は今尙五月幟に残つてゐる。最近に於ては縣下日高郡の人小坂某が八年間の重病に悩み醫藥の効更に無く當山大師に一心祈願をなしたところさしもの難病忽ちケロリと癒えたので報恩謝徳の爲め年二回の禮參をなし、大錫杖を奉納せり、かゝる攝化利生の靈驗は實に枚擧に遑あらず世々顯密の高僧相踵りて止住し貴賤老若の賽者常に絶ることなく雲山高嶺に輝く千載の法燈を傳ふるもの誠には諸佛善神の威護の賜である。

眺望絶佳滋味豊かな

美山亭

那智山へおまわりされたお方の休憩所でありお支度所である那智隨一の美山亭は靈峰那智を背に負ひ繪の如き紀の松島勝浦港を望見し那智の名瀑が指呼の間に望まれ、居ながらにして春は花、夏は涼に、秋は那智全山眞紅に燃ゆる楓、冬は雪見に四季をりくくの興趣がある。料理は地方的滋味のある乙なもの、ぜひお立寄をお奨めする。尙、那智山、妙法山登山自動車の待合休憩所である。

風光明媚の勝浦港

南紀の絶勝、勝浦の持つ秀麗限りなき勝浦港の内外の海岸美と大小無数の群島の麗かな風光の地に於て断じて他の追隨を許さないほどに勝浦が持つ雄大なる大自然美は国立公園の研鑽の花である。

しかしこの限りなき風光に恵まれた南紀絶勝の白媚勝浦を訪ねる者の讚嘆の聲、又その聲によつておのづと遊覽探勝入湯の人々が集まり來るのである。

探勝遊覽

の人々のために如何にこの勝浦が大自然美を具備してゐることであらう、その天然の持つ大自然美こそ是非一度は探勝すべき太平洋沿岸の一大美觀である。當港は水が深く勝浦港は熊野の關門であつて天が紀州に與へた縣下唯一の最良港である。當港は水が深くて巨船に入るに足り浪靜かで島が多くて幾つもく入江があつて紺碧の海に浮べた大小無数の群島には常緑樹が年中緑の色を湛えてゐる。さうして奇巖怪石の頂上には點々として



(勝浦港海金剛)

巨龍が蟠かまつて居るやうな磯馴松が蟠居してゐる。その風光は眞に海内無双で恰も一幅の名畫を見るやうである。此の風景を賞めて

紀の松島

と稱してゐる。更にまた勝浦の眞價を最も大ならしむるものは港を中心として到る處の群島と町内に無色透明な熱湯が滾々として噴出して居ることである。しかもその温泉が醫療的の顯著と温泉の豊富によつて愈々益々勝浦の眞價を發揮し光輝を放ちてゐるなどのいろくの點から云ふても彼の日本三景の一なんぞと威張つて居る松島の景觀に勝ることが數倍で全地の人々は紀勢線開通の曉はお株を奪はれはせぬかと神経衰弱を起して居るのも無理がない。(口繪寫眞参照)

勝浦の名所舊蹟

狼煙山

は昔、のろしを擧げた山で今に山頂にその跡がのこつてあり、その眺望は勝浦第一

展望臺で南方勝浦灣から森浦灣さては鷹巢岬よりそのさきに鯨で有名な太地灣を湛え、はるかに東にのびて熊野灘さらに熊野の諸靈峰がただ一目、しかしてこの山から那智の大瀧が白布を垂れたやうに望見し得る。

高見山

は神武天皇熊野御東征の御時丹敷戸畔との戦ひの御砌この山にお登りになつて指揮し給ひし由緒いと深かき舊蹟である。山へ登るには貴司の湯の裏山から登るのは一番近道である。忘歸洞はこの附近に多く見受ける洞窟と同巧異曲のものでなく特種の面白さが存してゐる。洞中に數百人を容るべくそうしてその中にまた一つの温泉が沸々と湧出して千態萬様の奇觀には眞に驚嘆の外はない。忘歸洞とは曾て徳川頼倫侯が此處へ來遊されたときこの天下の奇觀に恍惚として暫し立ち去りかねて遂に忘歸洞と命名されたそうである。

港の奇井

紺碧の勝浦港の中央にあり幾十尺の海の眞中に眞水が湧出してゐる。世の中に不思議なことは澤山あるがこの勝浦港の奇井ほど世にも稀らしい井は他になからう、如何に現代科學の力を以てしても此の井の解決が出来ない神秘的の麗水である。昔文覺上人が那智の瀧で荒行したその瀧壺から地下を伏流して來るのだと言ひ傳へられてゐる。この港の秘水は勝浦港に停泊する船舶に給水さるので海上生活者は全く神の與へた恵みの水として多大の尊敬を拂つてゐる。

辨天島 勝浦港外は怒濤澎湃として巖礁を嚙んでゐるが辨天島が大勝浦の女性的の波靜かな長

汀曲浦にあり附近一帯は白砂青松の夏季海水浴場である。

祭渡ヶ島

の頂上に漁神を祭る小祠があつて彼の有名な「紀州熊野の祭渡ヶ島は根から生えたか浮島か」の歌を生んだ名高い島である。

其他に鶴島、音島、筆島、中の島等があつて何れも奇岩怪石と大小の黒紫の岩礁が點々と隆起しその中に磯馴松と原生のつつじが色とりどりに彩つてゐる。更にまた越の湯近くに

は日和山遊園地も何れもその景観は筆舌に悉せない眺望絶佳である。に有名な平家の御曹子維盛卿が末路遁竄の砌り船から太刀を落したと傳へられる太刀落島は南方に點在し波濤に揺れてその遙かの沖には稍々大なる鯉島が横はつてゐる。腫を東方にグルリと轉ずれば赭色の岩脚を波に洗はせて長閑に横臥してゐるのは音に聞く山成島この島は三位維盛卿が入水した處である。

平家物語

勝浦の風光明媚は私が知る範圍の美辭麗句をならべたてても到底この豪壯或は優婉美觀壯觀、絶觀の風景の萬分の一をも表現することが不可能であらうこゝらで擱めて置く。終に臨んで南紀探勝、遊覽の人達に一言申上ておきたいことはぜひ勝浦で一泊勝浦の大自然美と温泉に接せられんことをお奨めしたい。

勝浦港の著名温泉内湯旅館

旅館名	室数	收容人員	宿泊料	中食料	娛樂設備
越の湯	一七	一〇〇以上	三圓以上五圓 (但團體二圓 五十錢より)	一圓以上二圓	ラヂオ、蓄音器、圍碁、將棋、無料三人乗ボート、客室又は庭前石垣より魚釣り
貴司乃湯	本館 別館	五〇以上	貳圓五拾錢 三圓、四圓	一圓以上	ラヂオ、蓄音器、圍碁、將棋、魚釣りの便あり
外の湯	大廣間 を合せて二〇	一二〇	二圓 二圓五十錢 三圓、四圓	一圓以上	麻雀、ピンポン、ラヂオ、蓄音器、圍碁、將棋、テニス、舟遊び等
なぎさや	本館 新館	一〇〇	二圓五十錢 三圓半四圓	一圓以上	ラヂオ、蓄音器、圍碁、將棋、魚釣り
中島温泉	本館 別館	八〇以上	二圓以上四圓	一圓以上	全島遊園地の樂しみ、ラヂオ、蓄音器、圍碁、將棋、魚釣り、舟遊び、港内外遊覽、磯釣り鱒取り等
浦島温泉	本館 別館	一〇〇	二圓以上 二圓五十錢 三圓	一圓以上	テニスコート外完備



勝浦灣内中島温泉
浴場の一部……◇

遊園地よりの繪如き勝浦港を望む

勝浦の新名所 温泉内湯旅館 中島温泉

清淨な空氣と豊かな紫外線と野趣のみなざる別天地、そこにみどり濃き木立にかこまれ海と山々の眺めに恵まれ近所隣りの煩もなく全く解放されておちついて旅の疲れを休める温泉旅館があつたらどんなにいいでせう、これは旅するものを持つ共通の慾求である。この理想的の温泉旅館は勝浦港内中之島に君臨し一城廓の如き温泉旅館と中之島全島遊園地を經營せる中之島温泉旅館である。中島温泉は周囲の自然とよく調和して見るからに氣持よくものさびた山の温泉、海の温泉、島の温泉の野趣が横溢してゐる。他の旅館とはまるでかへつた環境と氣分とを味はして呉れる。そうして近くに魚釣の快味三昧境が

中之島温泉 でなければ味ひ得られぬ寶である。温泉も高熱で量も多くサービスといひ設備といひ申分のない旅館である。

新宮鐵道時間表

新宮發	勝浦發
5.55	5.52
7.15	● 6.45
● 8.05	7.12
8.35	8.22
9.40	● 8.53
● 10.10	9.50
11.10	11.10
● 0.25	● 11.46
0.39	0.25
● 1.50	● 1.14
2.12	2.07
◎ 3.35	● 2.47
● 4.40	3.46
● 5.55	● 5.15
6.15	6.12
● 7.30	● 6.50
● 8.40	● 8.05

●印 ガソリンカー

◎印 急航連絡

正訂

南海電車廣告中椿温泉ゆき往復六圓八十二錢とあるは七圓八十四錢の誤りに付訂正す。尚熊野行大割引連絡券發行は十一月一日より當分の間停止致してゐます。

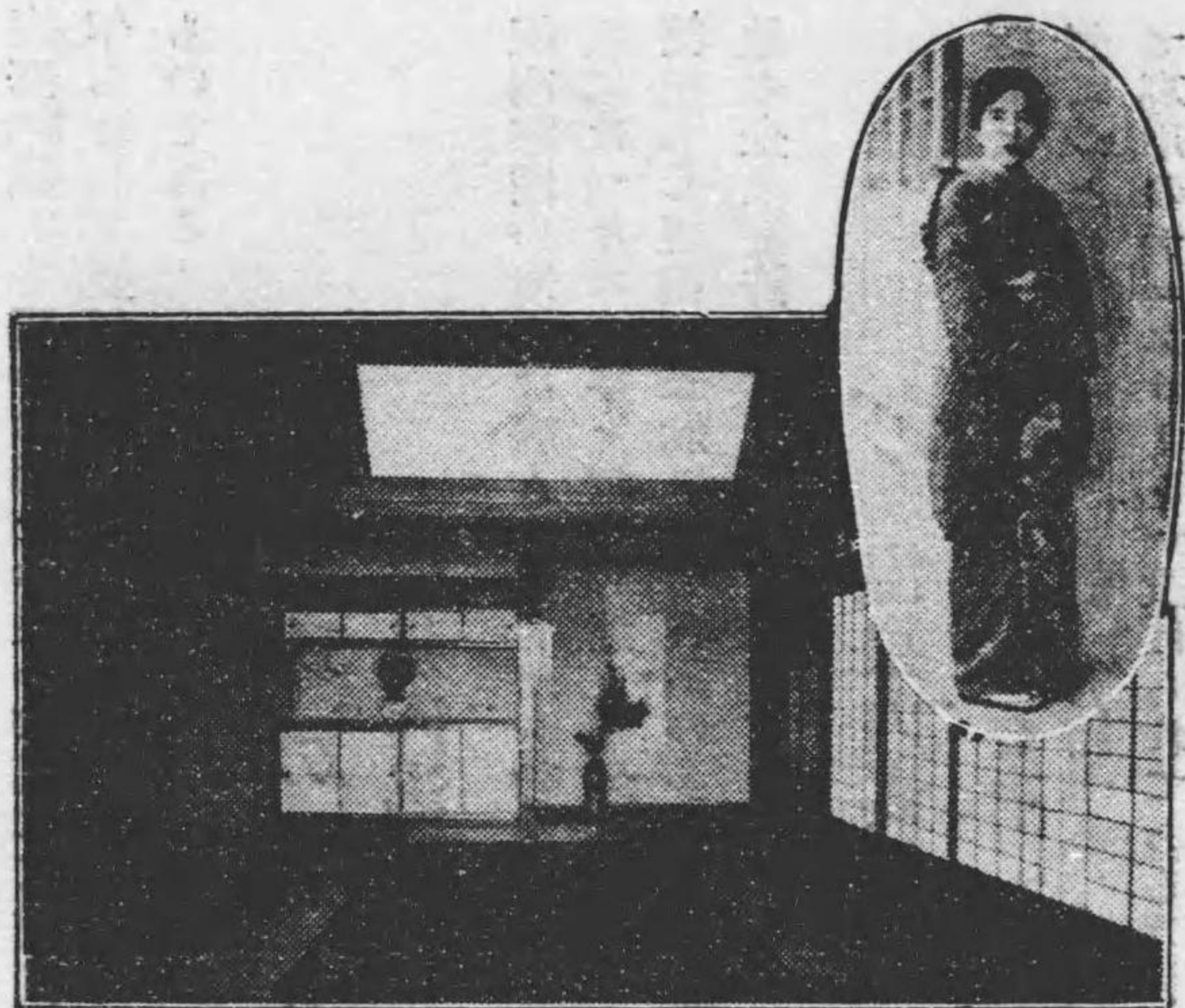
氣持のよい 温泉内湯旅館 貴司乃湯



(右筆は中央) 湯乃司貴港浦勝

經營者岸完一氏は生粹の勝浦子で資性温厚紳士の典型であつて衆望篤く推されて全地實業界の名譽

旅館は家庭の延長であるからその大小は別問題で氣持本位である。旅館はなんといつてもサービス第一主義氣持本位でなければならぬ。そこへゆくと貴司乃湯は旅する人達の氣持をシカリと握つて客の氣持にピッタリと合致するやう心掛けてゐる。温泉も勝浦第一の最高温度で量も一番多い、醫療的効果も偉大である。場所も眺望絶佳、設備の完備、わけてサービスの良好……この種々の特色があるため常に氣持のよい温泉旅館として人氣を博してゐる

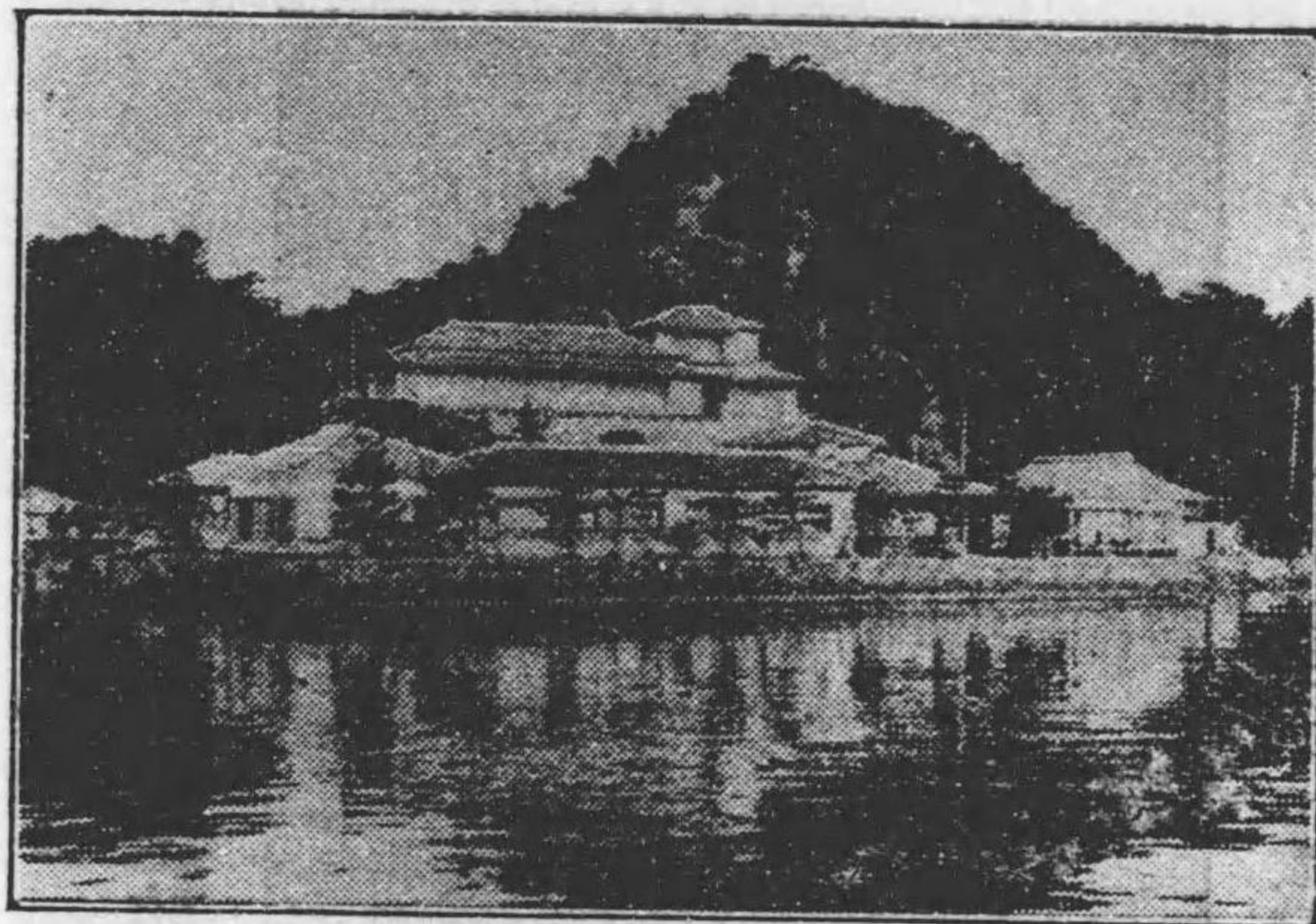


外湯の上間(客室)

外の湯温泉は勝浦港外三面山を以て繞圍し東方は太平洋に面し平坦なる盤石數千丈、自然の庭園を爲し奔浪怒濤の間に巨船が駛走し波浪が岩に激し天に沖して數千丈まるで水雷の發射するやうである。無色清澄な温泉一浴後岩窟に腰かけて釣り糸を垂れられ、婦人子供は干潮のときは鮑蛤を拾ひ、磯遊び等その娛樂亦實に面白し附近には燕生洞、山上には全館遊園地ありその眺望勝浦第一である。温泉の醫療的効能は内用として下腹充血、肝臟、腫太慢性氣管支炎中毒痛風、慢性癩麻質斯、外用慢性皮膚病、麻痺等に特効ありて昔より天下に名高し、夏は避暑に冬は避寒の最適の場所、旅館の設備も申分なく

山ふところの

温泉内湯旅館外の湯



勝浦港に望める越之湯

職にあり、國立公園選立された以上勝浦を南紀の泉都にせなくはならぬとの主張に基き専ら勝浦開發宣傳に日夜努力をなしつつある。

勝浦第一流の

温泉内湯旅館

越之湯

勝浦に於ける代表的旅館越之湯は勝浦港の至極閑靜な場所。貴顯紳士の宿泊所として勝浦に光る旅館である各客室の諸設備手入れも行届き浴場、洗面所など氣持よく整へられ殊に女中の行儀の正しきことは南紀唯一である。

家庭的親しみ豊かな感じの良い旅館にてサービスは實に到り盡せりである。しかして同旅館より居乍らにして昼氣樓を望見し得られ、旭日の出、月の出を座敷より見られることは當温泉の誇るべきものである。

澄明珠の如き

温泉内湯旅館 なぎさや

紀南勝浦の温泉は病人が浴せば奏効神の如く昔から浴客が常に絶ゆることなく、殊に近時交通が便利になつたので益々激増し愈々繁榮を極めてゐる。随つて同業者も數多きを加へたりと雖もその由緒正しく規模も宏壯にして客室の多きに於て設備の完全にして待遇の懇切なるに於て斷然頭を抜き他の企及を許さざるもの實になぎさやである。

温泉内湯旅館 浦島温泉

勝浦に於て、親切叮嚀を標語で賣出したのは浦島温泉である。座敷も多く設備も行届きサービスと勉強につとめて居る。又本館、別館があつて眺望も頗る佳く温泉は高温で湧出量も豊富娛樂機關として専用のテニスコートが設けられてある。

勝浦から湯川温泉へ

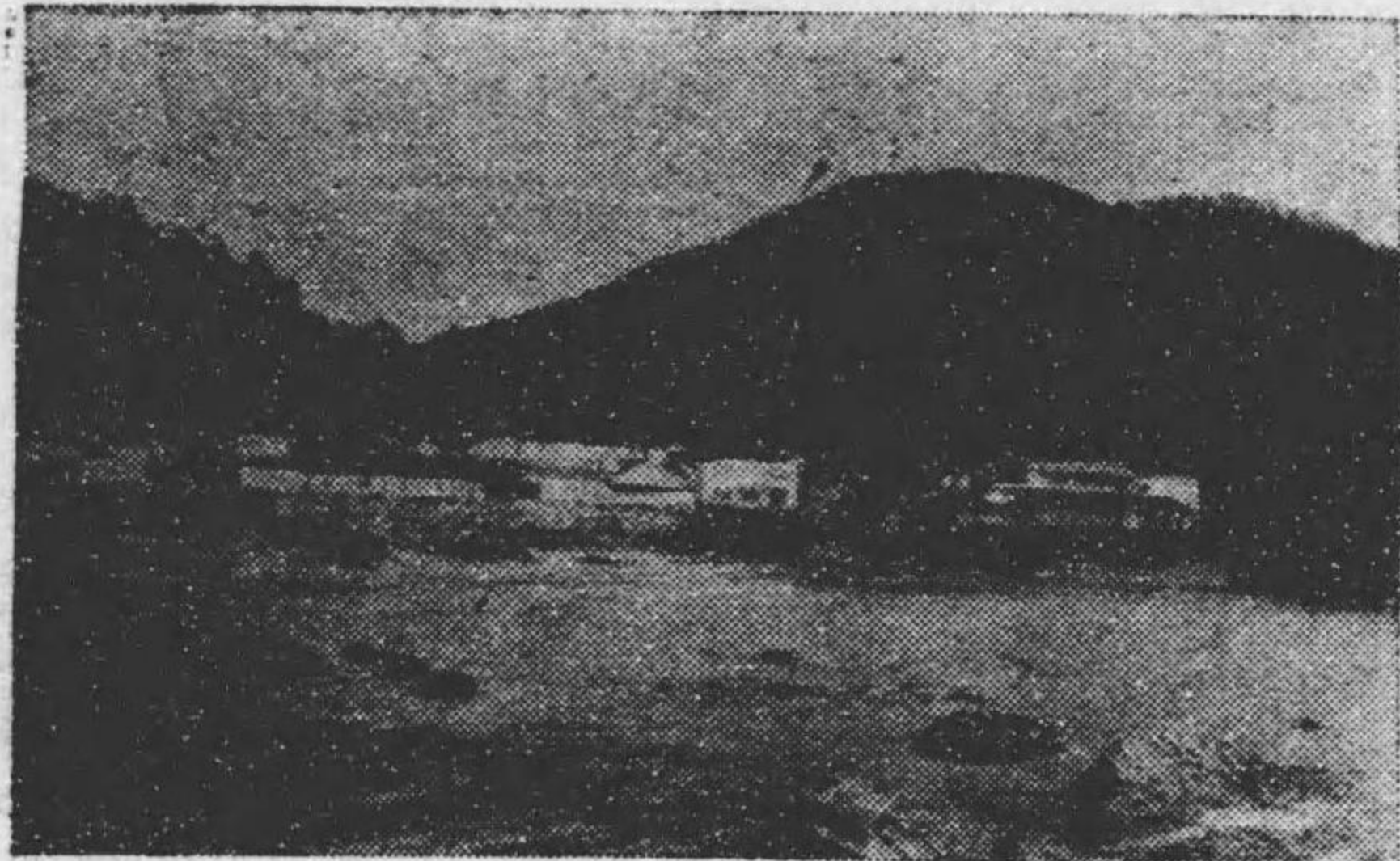
勝浦から湯川温泉まで陸で行くと一里だが矢張、勝浦港から森浦行の巡航船で行く方が面白い。船で十五分、賃金は十八錢である。

湯川温泉

は人皇二十二代清寧天皇行幸の御砌伊勢の人が發見し湯元かい石の薬師が現はれたその後僧空海が來て現在の薬師堂に祀つたのである。温泉村は櫻の名所で一村悉く櫻花濃淡相映じまるで花の幔地を蔽ふて恍として路が判らない位である。温泉の効能は胃腸、神経痛、神経衰弱等に特効あり。眺望も佳く、海と山と川と池とを備へたる山容と海岸美豊かな、なんとなく古色の滋味ある眞に静寂の温泉場である。旅館が五六軒あるが代表的のものは「きよもん」であらう。きよもん旅館は設備も整ひ、サービスも良く新宮や勝浦の旅館に劣らない立派な旅館である。

湯川から串本まで

湯川温泉を出ると繪のやうな湯川灣の碧水に沿ふて車が馳ると直ぐ森浦である。ここから古座町行のバスがある。所要時間は約一時間賃金は片道一圓である。太田川、下里、田原の各村の海岸に出る。この邊一帶は所謂白砂青松の豪壯な長汀曲浦の風光に恵まれた佳いところで、その絶景にみと



景全泉温椿

れてゐるとすぐに車が古座町の尖端に頭を突込んで居る。

古座

町は紀南の模範的の漁業地で海岸には大小無数の島が羅列し海岸美に富みまた天下の奇勝古座峽もここから行くのである。古座峽の有名な高さ百七十五間、巾二百六十間周囲一里の一枚岩の手前までバスが開通してゐる。古座から串本までは串本バスがあつて時間は二十分、賃金は片道六十錢、貸切は四圓。沿道には姫の松原、黒島等がある。串本は串本節の名において世間に廣く知られてゐる南國情緒の豊かな情熱の町である。

本州最南端

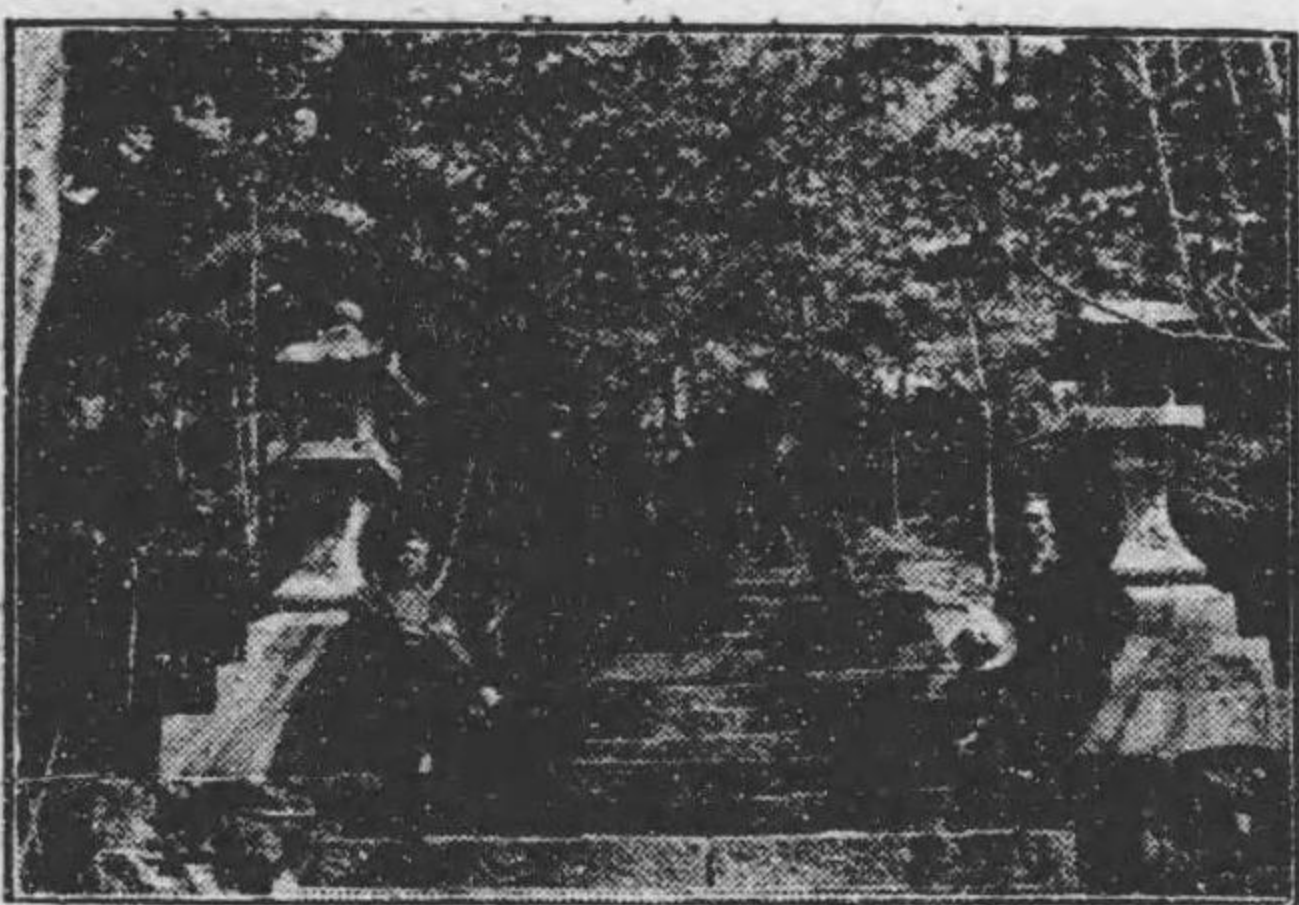
潮岬と串本とは切つても切れぬ縁の深ところで、串本から岬まで四十町もあるが熊野自動車のバスがあるから樂なものだ。潮岬燈臺は明治六年九月十五日に創立され、明治十一年に白色石造圓塔形に改築され現在のものは昭和三年の改良で五萬五千燭光が海上生活者に幸多かれと輝いてゐる。附近一帯は黒紫の岩礁で奇岩亂舞怪石突起しまるで猛虎の躡

踞するやうである。附近に放牧場と飛行場等があつて本州最南端である。

情熱の大島へ

私は勝浦をたつたのは午後三時だつた。途中湯川温泉へ廻つて湯川から自動車で串本へ向つた。私に乗せた自動車が串本の町へ入つた時には日は既にとつぷり暮れて町の灯影が懐かしさうにまたたいてゐた。古座を出て姫の松原あたりまで来ると遙に前の方に眞ア黒い山の麓に不夜城が見えた。その灯影がとても魅惑的なのでいつも串本で泊るのであるが、こん夜はアノ灯影の魅惑に引かれて情熱の大島で泊ることにせうと決めた。串本から巡航船で僅十五分憧憬の大島へ渡つた。九月下旬でちやうど秋の闌な時分灯火の色、風の肌觸り空氣の匂ひなんとなく南國らしい情緒と仄温かさを感じられるのであつた。港へ上つて島の有力者濱端幸之助さんを訪ねた。濱端さんは私の親友三尾代議士の参謀格の人で私の演説友達であつた。濱端さんの紹介で田井善といふ旅館に泊つた。ここで旅の疲を休めて翌朝早く起きて濱へ出て見た。私はちねの海の海岸に住んでゐて海に日常親しんでゐるけれども南國の海の趣きはまつたく違つてゐる。海の色は飽くまで澄んで海岸の黒紫の岩礁に腰をかけて海底を覗くと水の底まで透きとほつて見える。中層に泳いでゐるアジや二尺もあるボラにベラの姿も海底の石まで一ツ／＼と數へ切れるくらいはつきり見える。なんといふ魅惑的の海の蒼さであらう。海岸をたつて大島の村を見て廻つた。村は古風で素朴で如何にも澁

い漁村らしい活気があつてそれでどことなく媚めかしいところのある親しみに満ちた島である。激しい現代の思想の渦巻の中に居る私達都會人には少からぬ驚異でありそれだけに大島と云ふ處が都



(花櫻の社神門水島大)

會の刺戟に疲れ切つて居る人々の心をどれだけ撫でさすつて勞つて呉れるかが考へさせられるのである。村で一番高い金山へ上つて見ると串本、古座、高池の町々を一眸の下に鳥瞰することが出来、遠くには熊野三千六百の靈峰も見え、同時に熊野洋が見晴らせるのであつて蒼い／＼海上に白い波が立つてゐるのがさながら幾千萬羽の白鳥が浮んでゐるやうに見えた。島には檜野の燈臺、トルコの軍艦が暗礁に乗り上げて遭難した遭難記念碑に熊野洋の一奇觀海金剛と白濱等の探勝も一日の清遊の地として面白い勝景である。

一夜妻

大島の港は晝間は出船入船の氣笛とギギといふ櫓の音だけしかかぬ靜寂の島であるが一度夜が訪れて灯影が明滅する頃になると情景が急轉直下して一變する。夜の大島がローマンチックの島として近頃盛んにその情熱的を宣傳された。ほんとに夜の大島は南國的情緒綿々として盡きるところを知らない流石にエロの大島とうなづかされる。

大島遊廓の娼妓はんは田舎の娼妓に似合ない凄い美人がある。繪から抜け出したやうな美人、觸ればハチきれそうな美人、瀾熟した肉の女、豊やかな臀部を錦紗で包んで曲線美をハツキリさせた女襟り足を思ひきり出した女。此妖麗凄艶の美人は氣品ある冷徹な眸と漆黑な髪と玲瓏の聲に情味たつぷりで一夜泊りの旅鳥を招いてゐる。「大島女郎衆はよい女郎衆。千里沖乗る船とめる」といひ度なる。代表的遊廓には七福樓、榮樓、朝日樓、魁樓、勇樓がある



榮樓内桂

大島

は沖で黒潮に戰つて逆浪に翻弄された船人の唯一の避難港として選ばれてゐるが、その避難港には酒あり、唄があり、之を盛んならしむ女性がある。船人は風波の都合で長い碇泊となると島の景色の良いところで馴染女と手を携へて酒肴を持込んで野外遊宴さへもやつてゐる群、また澄きつた青海原に船を浮べて彼女達と魚釣をやつてゐる一群もある。一粒一粒の光つてゐる美しい濱で片割月に影を二ツ長う映らしての散策に月光が反射してきらめく砂上にべつたりと座つて砂を掌に握つては滯し握つては滯す彼女達には少しも職業意識がない全く純真そのものの人の子の姿である。島の娘の純情には私は心を傷めた。しかし、なぜ大島はこんなのにびりとした家族的なんであるかといふところは、島だけで遊廓は全く解放的で、彼女達も樓主から一切の自由を認められてゐるから馴染客は勿論、一現の客でも手を携



垣重八内樓福ヒ

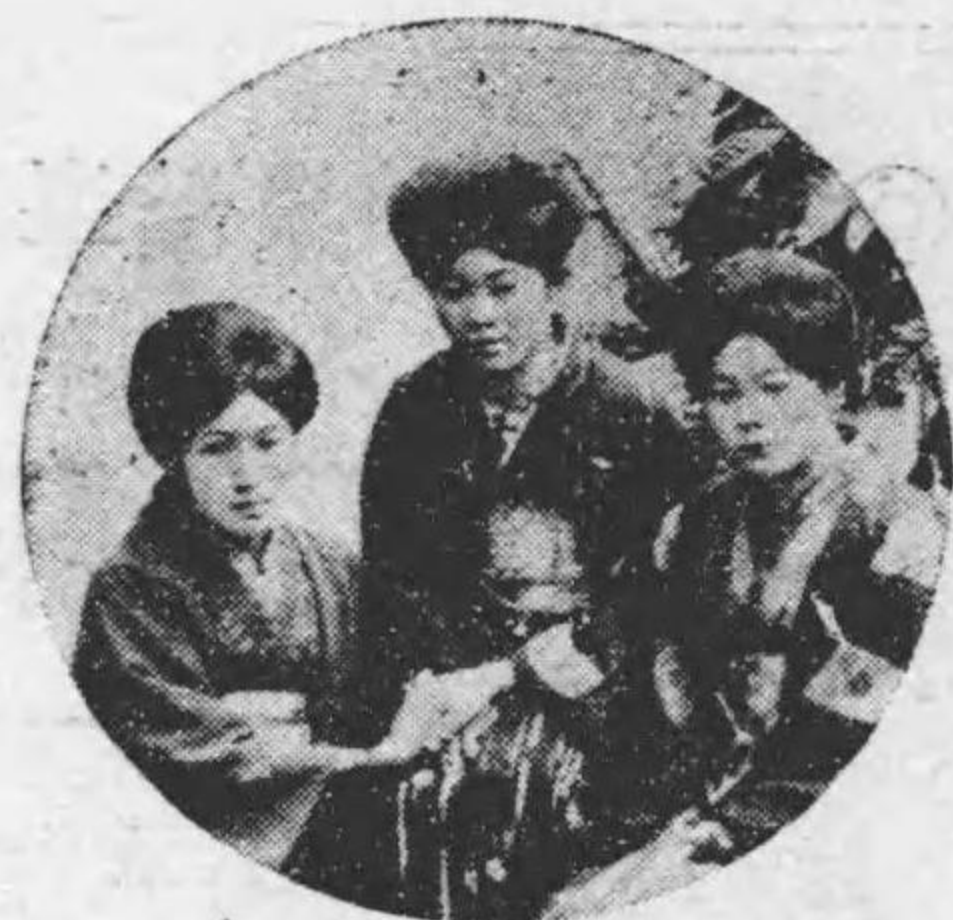
へて自由氣儘に散策に出て行けるからであらう。それに大島は玉代が非常にやすい、宵から朝まで二圓五十錢もあれば一威張こんな譯だから近頃の旅する人々はなか／＼考へてゐるから串本で泊るのを大島まで一寸足を延ばして旅館で泊る代りに遊廓を利用する人がだん／＼増して来た。ほんとに大島は情熱の島である。熊野路を旅する人々にとつて大島こそ正に肺の底から呼吸する飲めよ、騒げよ唄えよの酒地肉林紀南唯一の王宮である。(昭和八・九・三記)

「串本から田邊まで」



榮友内樓魁

串本から田邊まで、昔の大邊路街道は交通頗る不便であつたが熊野自動車株式會社が近年多大の犠牲を拂つて田邊町を起點として串本まで走行哩數四十九哩のコースを開拓した。しかもこのコースは風光明媚の一大展望コースである。白砂青松の幾多の長汀曲浦の青海原、波靜かにして白鷗眠り或は萬馬濤を蹴つて地軸を驚かし千鯨沫を噴いて星拘を撼するとこ



花名の樓日朝

を一齊に撞するに似たる物凄い海邊もある。或は萱の軒に萱を藏める山里の晝は松風、夜は猿の聲より外に友なき靜寂の山村あり、或は周參見、日置町等あり、周參見には周參見温泉、椿に天下の靈泉椿温泉ありて眞に四十九哩の間は奇々怪々千紫萬紅の雄大、壯觀、美觀絶觀の景趣が横溢した風光には實にアツ……絶景……偉觀との快哉の叫びより他になものも持合せない。此の景致は私の知つてゐる範圍の美辭麗句では到底表現することは出来ない。私は讀者諸氏に百聞は一見に如かずでは是非國立公園熊野路の美を探ぐられんことを切に／＼望みて筆を擱く。



◎んさ宮本・泉温峯之湯◎
岬の潮。島大。本串。智那。浦勝

の瀕勝絶の下天
はに勝探御湯入詣參
を用利御非是

和歌山縣田邊町

熊野自動車株式會社

本社 田邊町

(貨物部)

電話 四七二
四〇二
七三二
番番番

地在々所業營

田邊驛前營業所 電話 二四五番
文里營業所 電話 一六八番
串本營業所 電話 一七〇番
湯宮營業所 電話 一七〇番
本川營業所 電話 一七〇番
請來營業所 電話 一七〇番
周朝參見營業所 電話 一七〇番

熊野の仙境

靜寂繪の如き川湯温泉へぜひ

紀州川湯温泉

温泉旅館

龜屋

電話(本宮)二番

信用と顧客本位にてサービス百パーセント
代表の新築成れる感じよき家庭的旅館……
靜かにして清きせゝらぎに美しくしき河鹿の聲を聞き舟遊びに
鮎釣りに川原の温室、浴場等交々の行樂あり
(団体、御滞在には特に御需めに應じます)

都塵を拂ふ閑寂の境

川湯温泉御入浴には

温泉旅館 富士屋

紀州川湯温泉
電話(本宮)七番

◇家族的にて勉強と親切本位

◇閑靜にて清流に河鹿の聲を聞き鮎釣りに舟遊びに

川原に温室、浴場の樂しみあり。

◇特に団体御滞在には御相談に應じます。

湯の峰は日本最古の温泉です

あづまやは湯の峰の最勝景にある旅館です。

建築と設備と御待遇とは、キット御満足して頂けると存じます。

皆さまのお出をお待ちして居ります………

本館と新館とを合せ客室二十有八あり、温泉浴場の外にあづまやの湯あり、側に珍植物ユノミネシダ生ず、又湯の峰名物の大竹藪は弊館内にあります。

紀州湯の峰温泉

あづまや旅館

電話(本宮)二二番

熊野最古の温泉に 熊野最古の旅館

●熊野参詣と音に名高き湯の峰温泉へ!!
 新館・別館、設備完成
 ●親切にて真に信用本位とサービスヲモットーとして
 ●温泉場の中央に位し附近の名所、舊蹟御遊覽及名湯
 小栗湯に最も近く至便なり
 (客室：二〇、疊敷：百五十疊半、団体並に御滞在
 は特にお需めに應じます)

紀州湯之峰温泉
 温泉旅館
 伊せや
 電話(本宮)八番

☐湯之峰名産湯の花陶器館内陳列賣店にあり

古き歴史の湯之峰温泉 御入浴と本宮さ詣りに

紀州湯之峰温泉(電話湯之峰局扱)

温泉旅館 よしのや

●顧客第一に眞に強勉と親切本位
 ●小栗判官入湯の天然石壺湯に近間
 ●湯之峰特産湯之花發賣所
 (団体御滞在には特にお相談致す)

熊野参詣ご……
 絶勝瀨峽遊覽には!
 紀州本宮町(電話二三番)

丸八旅館
 ◎代表せる信用本位の旅館……顧客
 本位とサービスをモットーとして

熊野詣でご
 御遊覽には是非……
 紀州熊野本宮
 旅館 音無館
 電話(本宮)二二番

天下の絶勝瀨八丁と……

国立公園熊野御遊覽には!!

代表せる信用サービス本位の旅館

招仙閣 瀨 ホテル

瀨八丁 (電話瀨局呼出)

- ▽ホテルは繪の如き瀨峽を俯瞰し、清流に鳴く河鹿、葛川のせゝらぎの音を聞き……すべて居乍らにして瀨峽の真髓に接する事が出来る。
- ▽殊に客室静浄、多、葛川に渡せるホテル専用の針金橋は全国始めての試みとして大いに珍重さる。
- ▽夕べの瀨の静寂、曉の瀨の雄大―是非美しくしいこの大景に接して心ゆくばかり瀨の真味を味つて戴き度い。

親切と勉強本位にて……

サービス百パーセント!

紀州新宮

御旅館 油庄旅館

電話三四番

- ◇熊野三社詣でこ鬼ヶ城、那智、瀨峽御遊覽には是非!!
- ◇閑静にして室多数、料理は美味新鮮、御望みにより驛より自動軍御送迎申上ます。

南紀で最も古い
最も信用ある

旅館

家族的にて顧客に忠實をモットーとして！

新宮市馬町

清水屋旅館

電話一二九番

◇熊野唯一の茶代全廢旅館◇

「茶代は絶対に申受けず」

國立公園熊野探勝と……

天下の絶勝瀨八丁へ！！

新宮…瀨峽迄三時間、瀨より新宮迄二時間

新宮…瀨廻り本宮迄五時間、新宮…瀨…本宮…新宮往復八時間

(新宮—瀨八丁迄約二十七哩、新宮—本宮迄約二十三哩)

瀨—本宮迄約二十一哩)

紀州新宮市

熊野川飛行艇株式會社

電話
本社 二三二番
川原發着所 五三二番
本宮 一五番

賜天覽熊野百景帳

今上陛下熊野行幸に際し奉り寫眞帳獻上の光榮に浴せり

久保寫眞館

紀州新宮電話一六七番

大島……申本間優秀巡航船

恒 隆 丸

御川は「大島」電話二〇番「申本」二村扱店へ

大島 申本 間 共同巡航商會

紀州大島 電話(大島)二〇番

熊野代表的名産品

特産 那智黒硯

◆自然石硯 石共蓋付硯、丸形角形其他御好みに應じ調製格價(五十錢以上二十圓以下)
◆碁石、文鎮、置物、風鎮其他多數量入用の御方には特に御相談に應じます。

製造發賣元

なちぐろ

紀州新宮(郵便局前)

代表者 塩崎 巳之吉

電話三四二番呼出 振替大阪七〇四〇四番

那智詣りと……

妙法山登山には是非

- ▲那智山中眺望最も絶佳にて殊に那智瀧見物に最適の處
- ▲勉強とサーピス本位……瀧見亭の設けあり
- ▲那智山、妙法山登山の自動車に乗降に最も便利

那智土産品
並御休憩所

美

山 亭

(那智山・妙法山參詣みやげ賣店)

- ◎那智山、妙法山登山自動車中繼待合所
- ◎那智瀧休憩出張所、妙法山休憩所の設備あり。

紀州熊野那智山
田 中 半 次

熊野国立公園、天下の奇勝鬼ヶ城へ！

サービスと顧客本位にて居心地よく
客室外敷、御宴会等の需めに應ず

三重縣木本町本町二(電話長五一番)

酒 甚 旅 館

風光明媚の七里御濱にあり……

眺望絶佳の理想的のホテル！！

◎サービスマン勉強本位……美くしき別館新築◎

對洋閣 御濱ホテル

和洋兩室あり

三重縣木本町御濱
電話一〇〇番

サビースト顧客本位の
當 地 一 流 の 旅 館

団体御宴会には特に
御需めに應じます

御旅館

喜 多 館

三重縣木本町
電話四八番

天下の奇勝鬼ヶ城と
木本御遊覽には是非！！

三重縣木本町

御旅館 きや忠旅館

(木本町役場裏となり)

◎顧客とサービス本位◎

◇紀州七里御濱鬼ヶ城遊覽自動車◇

●成川●(新宮對岸)●木本間

一五哩 所要時間一時間

この間は漂渺たる大洋に臨んで紺碧の黒潮渦巻く白砂青松の長汀で名付けて七里御濱松原と申します。途中繪のやうな橋梁亭々たる老松の美林、伊弉册尊の御陵「花の窟」巨獅の咆ゆるが如き獅子巖など舊蹟勝地が澤山あります。天下の奇勝鬼ヶ城は木本の市街續きの屹然として海洋を壓する十數丁に渉る大巖岩で隨所に奇景を現出してゐます。世人が「日本一ドライブエー」

と申されるのは即ちこの長汀の樹間を縫ふ坦々のやうな道路なのであります。運轉時間：自四月至九月午前七時より午後七時まで、自十月至三月午前七時半より午後六時半迄、片道五十分毎に双方より發車致します。

●貨金：片道五錢、團體は割引致します。御照會をお願い致します。●海峽行：弊社小川口停留所より陸路二十五丁あります。成川、木本より小川口停留所まで賃金一圓二十錢、●奥瀬行：弊社平谷停留所より陸路三十丁あります。成川、木本より平谷停留所まで賃金一圓二十錢。●留所まで賃金一圓二十錢。●世間にまだ多く知られぬ熊野の景勝を普く探られんことを只管待望してゐます。

◎快速にて勉強とサーブিস本位

三重縣木本町

南紀自動車株式會社

電話一四九番(事務用)一一九番(旅客用)

成川 扱店(鶴殿三番)

熊野參詣と御遊覽には

快速にて親切と乗客本位の

三和自動車を!

三和自動車株式會社

成川扱店 電話(鶴殿)一三番
木本扱店 電話(木本)二九番
六八番

熊野路の探勝には

せひ御利用を……

紀州尾鷲町

紀伊自動車株式會社

本出張所 電話二九番
本本町停留所 電話二九番
長島本町停留所 電話二九番
長島新町全 電話二九番
相賀全 電話二九番
引本全 電話二九番

熊野詣で……

南紀遊覽に!

◎一足延ばして伊勢、尾鷲へ

紀州尾鷲町北町

郵便船 熊野商船株式會社

電話(事務用)三一〇番
荷受用一三三番
木本扱店 電話(木本)九番
長島扱店 電話(長島)二〇番

熊野那智詣り

妙法山參詣には是非

夏季理想的の濱の宮海水浴場へ

紀州那智濱の宮(那智驛前)

御旅館 那智館

パのラマの如き

美しくき繪の境

懇切と顧客本位をモットーとして

◎港に望み絶景を一眸に收む

紀州勝浦港

内湯旅館

越之湯

電話九番

◎客室最も宏麗、室、大廣間多數

御散歩には弊館の日和山眺望台

家庭的本位にてサービス百%!!

港の温泉勝浦に

相應ないさぎの湯

◎船で渡る世話なき温泉

◎停車場と棧橋の中程約一丁

紀伊勝浦港

内湯温泉旅館

なぎさや

電話十五番

◎繪の如き勝浦港に臨む三階客室

◎港外巡り温泉巡りに至極便利

風光明媚の勝浦灣中にあり

小波寄する眺望絶佳の理想境

内湯温泉旅館

中島温泉

紀州勝浦港
電話二二二番(扱)

◎顧客本位とサービスヲモットとして……落着きある
◎新築落成、中の島遊園地を擁し四季交々の樂園
◎數條ノ隧道により港の内外を自由に遊覽。喫茶、賣店。
……湯治、貸室の設備あり。魚釣り、魚(鱒)採り名所

◎紀南に誇る風光美の温泉!
◇太平洋に面す天下の絶景

居ながら旭
の出月の出
屨氣樓の見
える、ラヂ
ユウム鑛泉
元祖

内湯温泉旅館

紀州勝浦(電話七十七番)

外湯海岸案内所
(電話一一七番)

◇燕の巢燕生洞あり
◎サービス本位にて家族的の
温泉旅館!

眺望絶佳、名勝忘歸洞に接し
熱泉豊かにして客室多數

内湯温泉旅館
浦島

紀州勝浦港
電話(勝浦)一六一番

熊野詣りご御遊覽の

おみやげは弊店で……

名産品
特産品
ゆめんや

◎二階に皆様の御休憩室、食堂の
設備がなつてゐます。
紀州勝浦海岸通
電話二二二番

新館落成

▽海に面し閑静にして優越せる眺望
◎国立公園 ◎鬼ヶ城 ◎勝地多し

旅館

龜

齡

館

電話三十九番

波に浮ぶ夢の大島へ

紀州大島

御料理

七

福

樓

電話(大島)七番

大島遊覽には是非

紀州大島

御料理

榮

樓

電話(大島)二五番

大島情緒と勉強本位の

紀州大島

御料理

勇

樓

電話(大島)一八番

波の花咲く大島へ……

紀州大島

御料理 魁

電話(大島)一四番

樓

サービスと旅情豊かな大島へ……

紀州大島

御料理 朝

日 樓

電話(大島)一三番

「熊野御遊覽のお歸りにはぜひ白濱温泉へ」



九三昌山杉と江静川夏

白濱へいらしたら

- ◎設備完全
- ◎待遇萬全
- ◎清潔低廉

内湯旅館

臨海樓

電話(湯崎)五五番

「静寂其のものゝ……………」

海と山と川と池との温泉郷」

當温泉は人皇二十二代清寧天皇御幸の御發見
紀州最古の温泉、櫻花と閑靜を以て聞ゆ。

紀州湯川湯泉

内湯 旅館 きよもん

生駒千里
紀州湯川温泉場
電話(勝浦)一〇七番

昭和八年十一月二十日印刷昭和八年十一月廿五日發行

【熊野路の美を採る】(定價金參拾錢)

著者 原 靜 村
大阪府岸和田市筋海町四十番地
發行兼印刷人 原 德 太郎



大阪府岸和田市筋海町四十番地

發行所 南海民友新聞社

信用と懇切をモットーとする

家庭的旅館!!

- ▽神武天皇熊野御討征の御舊蹟高見山に續き小波の海濱
- ▽眺望絶佳、風光明媚の境、避暑避寒に最好適—料理は新鮮
- ▽驛より六丁、商船棧橋より二丁……………自動車の便あり

内湯 旅館 貴司乃湯

勝浦第一の良熱泉
奇効神の如きラヂウム温泉

紀州勝浦
電話長七番

園公立國

◎ 券覽遊野熊 ◎

瀨八丁南紀行は陸路で……

便利な割引連絡券!!

引割大絡連りよ波難

本宮
湯之峰
串本

ゆき

難波より南海電車

○紀勢西線
汽野バス
熊野バス
連絡

往復 十四圓四十四錢

椿温泉ゆき 往復 廿圓八十二錢

潮岬行き 往復 大割引

御問合……南海難波案内所(電話戎四三番四番)

車電海南

終